

第一章 序論

1. 研究の背景と目的

「～ておく」は主に何かに向けて（目的）、意図的な行為をする「準備性」を持つものとされている¹。例えば、「今晚映画を見るから、チケットを買っておこう」。「映画を見る」ことが目的であり、この目的を達成させるために、前もってチケットを買うのがそれに備えての行為である。このように、「～ておく」についての研究は主に「準備性」を中心に進められてきた。「準備」の用法のほかには、吉川武時（1973）は「放任」を表す「～ておく」を提示し、『「放任」とは、対象に働きかけないことを持続させるということである』と述べた。先行研究と違い、谷口秀治（2000）は「～ておく」という文法形式は、文脈上、あとのことが前提となっている場合には、準備性を色濃く持つが、逆に、あることのアトに続く動作として位置づけられると、その事柄の終結動作としての機能が前面に出てくるといえる」と述べ、「～ておく」を文脈によって「準備性」と「終結性」²があるものとしている。

「準備性」「放任」「終結性」、こうして「～ておく」には多様な用法が含まれていることがわかる。これまでの先行研究は、主に「～ておく」の諸用法を説明することを中心に進められてきた。しかし、それが逆になぜ「～ておく」には一種類以上の用法があるのかは解明されていない。

また、森田（1977）では「～ておく」は意志的な動作動詞に付き、その動作を当人の意志による行為として示すところに特徴がある」との指摘があったが、「～ておく」には無意志動詞に付く用例も見られた。

- ・ 大なり小なり、誰でも失敗はするし、失敗を恐れて行動しないのは良くない。俺はむしろ小さいうちに失敗しておくほうがいい場合も少なくな

¹ 山崎恵（1996）は「～ておく」について、「～ておく」は後の事態に備えて前もって行う意図的な行為とその結果の状態をひとまとまり的に丸ごと捉えている（p. 14）」と述べている。

「～ておく」について、『日本語学習使い分け辞典』では「ある目的のために、前もって何かをしたり用意するときに、「他動詞（て形）＋おく」の形で使います（p. 151）」と説明されている。

² 例：（婚約の噂についてマスコミに聞かれた芸能人が）まあ、そういうことにしておいてください。

いと思っています。大事なのは失敗した後だよね。

(<http://www.110upweb.com/interview/sanada.html>)

一方、「試合する、輸入する」といった意志動詞は「～ておく」と共起しないことも注目すべきことである。

そして、日本語教科書において、主に「～ておく」の「準備性」に焦点を当て、「事後処置³」「放置」は提示することに留まっている。例えば、以下の例は『新文化日本語』と『みんなの日本語』にある例文である。

- ・ 食器は、割れないように、新聞紙で包んでおきます。
…「準備」⁴を表す例（『新文化日本語』）
- ・ あした会議がありますから、いすはそのままにしておいてください。
…「放置」⁵を表す例。（『みんなの日本語』）

「放置」用法として挙げられている例（11）だが、多くの台湾人学習者には「そのままにする」の中国語訳で理解され、「～ておく」に含意される放任の意味には特に注目しないようである。（11）の文を「～ておく」が付かない文に変えても、

- ・ あした会議がありますから、いすはそのままにしてください。

少し落ち着きが悪いが、意味的にあまり相違が感じられないので、台湾人日本語学習者にとっては区別が難しいものである。よって、「～ておく」とその前に来る動詞との関連性は教科書の例文記述だけではわかりにくいものである。また、「～ておく」は、「準備性」、「放置」のほかに、まだいくつかの意味用法があると先行研究では言及されている。例えば、「終結性」「一時的処置」「放任」

³ 『みんなの日本語』はこの「事後処置」を「行動が終わったあとで次回のためにしておくべき事後処置」としている。

⁴ 新文化外国語専門学校日本語科、2000、『新文化初級日本語Ⅱ教師用指導手冊』p. 91、双大出版有限公司。

⁵ スリーエーネットワーク、2002、『大家的日本語 進階ⅠⅡ[教師指導書]』pp. 60-61、大新書局。

などがそうである。

このように、その直前に来る動詞の種類によって、「～ておく」は違う意味用法を示しているにもかかわらず、台湾で一般的に使用されている日本語教科書にはそれについての説明が見られない。これも「～ておく」の持つ多様な意味用法が台湾人学習者に理解されない要因の一つであろう。

そこで本論では、まず先行研究における「～ておく」についての記述を概観し、不十分な所を見出すことにする。先行研究と違い、「～ておく」を考察するにあたり、補助動詞一般の特性から着手し、「～ておく」に見られる多様な意味用法を連繫させることを試みる。また、「～ておく」と共起する動詞としない動詞を調査し、その様相を「～ておく」の基本的機能と関連した上で考えたい。その成果でもって、台湾人日本語学習者向けの効率的な「～ておく」の教案を提案できればと思う。

2. 研究方法

本論で以下の三点を明らかにしたい。

1. 「～ておく」の基本的機能
2. 「～ておく」と共起する・しない動詞の特徴
3. 「～ておく」の多様な意味用法の相互関係

以上の三点を考察した上で、「～ておく」についての教案を考えたい。

以上の三点を考察するにあたり、研究方法としては、まず補助動詞がどのように本来の意味から影響を受けるかを考察することが不可欠である。本論では、いくつかの補助動詞の意味用法とその動詞の本来の意味との関連性を分析し、「～ておく」にはなぜ様々な用法が存在するか、その要因は「～ておく」の前に来る動詞の種類と関係があるのではないかと考える。これを検証するために、『日本語基本動詞用法辞典』にある動詞を対象に、『青空文庫』、『新潮百冊』、検索エンジン—グーグル、ヤフー—でその用例を探す。「～ておく」の前にどのような動詞が来て、どのような動詞が来ないのかを分析する。そして、分析の結果を踏まえつつ、これらの動詞は意味的に「置く」と、どのような関係を示しているのかを検討する。また、「～ておく」の実例から共起しやすい文の形な

どを析出する。そこから、どのような文の形が「～ておく」のどの意味用法と繋がるか、その要因は何かについても考えたい。

3. 本論の構成

本論は六章からなる。第一章は序論として研究背景と目的、研究方法、本論の構成を紹介する。第二章では先行研究における「～ておく」の記述と位置づけを概観した上で先行研究の問題点を取り上げ、本論の立場を定める。第三章では、「～ておく」と共起する動詞としない動詞の特徴を分析する。第四章では、まず補助動詞の意味用法と本来の意味間の関連性を分析する。それから、辞書における「置く」の解説を確認した上で、「置く」の意味に近い「～ておく」の意味用法－「放置」「放任」－の特徴を明らかにしたい。更に「置く」の意味が希薄化したことによって派生する「対処」を考察する。第五章では、初級教科書⁶で「～ておく」がどのように扱われているのかを調査し、その問題点を取り上げた後、台湾人日本語学習者向けの教案を考える。更に、実際の文章に現れる「～ておく」と初級で教授される「～ておく」が意味用法上、どのような違い、または使用傾向が見られるかを東海大学日本語学科の「中級総合日本語A」で学生たちが発表した339篇の文章から「～ておく」の使用回数を統計し、分析する。ただし、話し言葉を扱うことができなかったことを付記しておきたい。第六章では、本論のまとめと今後の課題を述べる。

⁶ 『みんなの日本語』と『新文化日本語』。

第二章 先行研究とその問題点

1. これまでの「～ておく」研究の流れ

従来の多くの研究では、主に「～ておく」の目的性に焦点を当てて進められてきた。この目的性の有無によって、「～ておく構文」が「準備」の意味になるか、「放任」の意味になるか、「一時的処置」の意味になるかとされてきた。数多くの研究の中で、「～ておく」を「準備」、「放任」を表す補助動詞としている点に変わりはないと言えよう。

「～ておく」に関する研究を遡ってみると、「～ておく」をアスペクト的視点に基づき、「準備」の意味用法を提出したものに松下（1924）⁷、高橋（1969）⁸などがある。高橋は、「～ておく」をすがた（アスペクト）動詞とし、「対象を変化させて、その結果の状態を持続させること」と「対象にはたらきかけないで、そのままの状態を持続させること」⁹という二つの用法を提示した。

しかし、体系的に「～ておく」研究を試みたのは吉川からである。吉川（1973）¹⁰は、「～ておく」のアスペクト的意味を細分類すると同時に、「～ておく」に付く動詞にも注目し、動詞の種類は結果的に「～ておく」の様々な意味用法にも関連するものとした。その後、『基礎日本語』で、森田（1977）¹¹は簡潔に「～ておく」を「自分のために、事後を予想して事前にそのことを行う」（準備）と「他者を前提とした行為で、他者のある状態にして、その状態をいつまでも続けさせる放任の意となる」（放任）と二分化した。

このように、従来の「～ておく」に関する先行研究では、大きな違いは見られなかったのである。

谷口（2000）は、これまでの研究と違うところに視点を据え、「～ておく」は「眼前の事柄や事態そのものの終結、完了を表すような場合もある」¹²と述べ、

⁷ 松下大三郎、1924、『標準日本文法』、紀元社

⁸ 高橋太郎、1969、「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』金田一春彦（編）、1976、pp. 117-153、むぎ書房

⁹ 高橋太郎、1969、「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』金田一春彦（編）、1976、pp. 133-135、むぎ書房

¹⁰ 吉川武時、1973、「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語のアスペクト』金田一春彦編、1976、pp. 267-293、むぎ書房

¹¹ 森田良行、1977、『基礎日本語』、角川書店 p. 124

¹² 谷口秀治、2000、「「～ておく」に関する一考察—終結姓を持つ用法を中心に—」『日本語教

「～ておく」を「準備」のほか、終結的機能（終結性）も持っているものとしている。しかし、なぜ一つの「～ておく」に事柄の準備というどちらかという物事の始まりを表す意味と終結の意味が同時に存在できるのか、こうした一見矛盾した意味には何か共通した概念はないか。以下、吉川、森田、谷口の研究をまとめつつ問題提起をしたいと思う。

「～ておく」に関する先行研究を、主に次の観点から検討していきたいと思う。

- ① 「～ておく」は今までの先行研究でどのように位置付けられていたのか。
- ② 今までの研究はどのように「～ておく」の諸用法を定義付けているのか。
- ③ 「準備」「放任」「一時的処置」と言われる三つの意味用法の間に関連性が見られるのか。見られたら、どのように関連されているのか。
- ④ 新たな問題提起を行う。

1.1 吉川武時の研究とその問題点

吉川（1973）¹³は、「～ておく」の意味を七つに分類した。（Ⅰ）～（Ⅳ）は、アスペクト的なものとされているものである。

（Ⅰ）対象の位置を変化させ、その結果の状態を持続させることをあらわす。

（Ⅱ）対象を変化させ、その結果の状態を持続させる。

（Ⅲ）ある時までに対象に変化を与えることをあらわす。

（Ⅳ）放任をあらわす。

（Ⅰ）～（Ⅳ）のほかに、二種類の意味用法がある。

（Ⅴ）準備のためにする動作をあらわす。

（Ⅵ）一時的処置をあらわす。

（Ⅰ）～（Ⅵ）の「～ておく」で解釈できない、特例とされるものが（Ⅶ）にまとめられている。

（Ⅶ）いくつかの特例。

育』104号、pp. 1-9

¹³吉川武時、1973、「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語のアスペクト』金田一春彦編、1976、pp. 267-293、むぎ書房

吉川はアスペクト的な観点から、「～ておく」の前に来る動詞の特徴に重きを置き、「～ておく構文」の意味は前に来る動詞に影響されるということを中心に研究を行った。以下は吉川（1973）における七つの「～ておく」の意味と、「～ておく」の前に来る動詞の特徴との関係を確認していく。

(I) 対象の位置を変化させ、その結果の状態を持続させることをあらわす

- (1)¹⁴ 私の家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください」と、立てふだを立てておきました。

吉川によると、(I)の「～ておく構文」は、空間的な存在様式を表す動詞を用いる。空間的な存在様式を表す動詞とは、ものに影響をもたらす他動詞 [+loc、+ext]¹⁵である。(1)では「～ておく」が付くことで、立てふだを立てた後にその状態が持続した、つまり対象の結果の状態が持続するという意味になる。また、もし何らかの要素が満たされれば(1)の「～ておく」がほかの意味用法になることも可能だと吉川は論じている¹⁶。

(II) 対象を変化させ、その結果の状態を持続させる¹⁷

- (2) 加藤さんは奥さんに鍵をあずけておいたんです。

(2)では、鍵を奥さんに預けた結果として鍵は奥さんのところにあり、しばらくの間その状態が持続した意味を表している。(II)の「～ておく」の前に来るのは[+t、+ch]¹⁸である。(I)と同様に、(II)も文脈によって「準備」または「一時的処置」という意味になる可能性がある。

¹⁴ 例文番号が二つある場合、左側の番号は本論の通し番号、右側の番号は引用文献にあった番号である。

¹⁵ loc=location 空間的位置に関する動詞、ext=existence 動作の結果の対象の存否。

¹⁶例えば、「立てふだがあれば、ごみをすてる人が少なくなるだろう」→「放任」。「立てふだをたてておいても、なおごみをすてる人があれば、つかまえてこらしめてやろう」→「準備」。「ごみすて場を作るまで、そこにごみをすてるのをちょっとがまんしてもらおう」→「一時的対処」。このように、文脈がはっきりしない文における「～ておく」がどんな意味用法を表すのかを判断しにくい場合もあることがわかると吉川は指摘している。

¹⁷吉川によると、(I)と(II)の違いは(I)の場合には、「置く」という本動詞の意味が生きているという点にあるという。

¹⁸ +t=他動詞、+ch=変化動詞。

(Ⅲ) ある時までに対象に変化を与えることをあらわす

(Ⅲ) で用いられる動詞は(Ⅱ)の動詞と同様、[+t、+ch]に属するものもある¹⁹が、対象の状態を変化させない[+t、-ch]の種類もある。また、「今から、今のうち、前に、あらかじめ」といった「ある時まで」に相当する語句と共起しやすいのが特徴である。

(Ⅳ) 放任をあらわす。

(3) ほうっておけばいいんだよ!

「放任」は、対象に働きかけずにある状態を持続させる意味を含む動詞を用いる。「ほうる、ほったらかす、そっとする」など放任動詞が中心となるか、「～ままにする」、「動詞使役形」なども放任の表現に用いられやすい。

(Ⅰ) ～(Ⅳ)のほかに、二種類の意味がある。

(Ⅴ) 準備のためにする動作をあらわす。

(4) わしが人民どもの恭順をためそうとここに掛けておいた帽子に、敬礼を拒んだのか。

(Ⅰ)における空間的存在様式を表す動詞に「～ておく」が付いたものは「状態の変化+持続」を表すものであるために、「準備のために」という意を帯びることになる。そして、(Ⅱ)と(Ⅲ)は、次の条件のどれかが満たされれば、「準備」の意味になる。

- ①「前もって、あらかじめ」などの語句が文中にあること。
- ②「～ように、～ために、～に」などの目的を示す表現が文中にあること。
- ③「～しておく、～しておけば」後のためになる、という意味の文脈のとき。

¹⁹ (Ⅰ)と(Ⅱ)の[+t、+ch]の違いを説明するために、「洗っておく」と「きれいにしておく」との例を挙げた。「洗っておく」はある時までにする動作を表す一方、「きれいにしておく」はある時までにする動作を表す場合とある時までその状態を持続させることを意味する場合がある。そのため、「洗う」は(Ⅲ)の意味にしかならないが、「きれいにする」は(Ⅱ)の意味にも(Ⅲ)の意味にもなる。

(VI) 一時的処置をあらわす

- (5) それじゃまァ、あの絵はいただくか、お返しするか、一応預かっておこう。

処置したものは後のためとなり得るため、吉川は「一時的処置」は「準備」の一種としている。この「一時的処置」を表す「～ておく」は「一応、しばらく、とりあえず、まず」といった副詞とともに用いられることがある。

(VII) いくつかの特例。

- (6) 「いつも案内状をくれて、絵は財産になります、お安くしておきますからと奨めてくれるんだが」(白い巨塔)
- (7) わざとまけておきました。

このように吉川の研究から「～ておく」にはアスペクト的意味と「準備」「一時的処置」の意味などがあることがわかる。

(6) の「お安くしておきます」は、売り手が、「買い手は「～ておく」と言われると何か将来のためにしてくれるものと思って、つい買ってしまふことになりがち」ということを狙っている使い方であると吉川は説明しているのである。ところが、吉川のこの説明は、論理的に捉えにくいところがある。つまり、売り手の言う「安くする」ことと、買い手が将来の事を期待して買っておくことは必ずしも論理的につながるとは言えない。むしろ、売り手の言うことは、買ってもらうための手段としての「準備」の方がもう少し説得力があるのではないかと思われる。

また、(7) では意図的にある行為をするという意を含む「わざと²⁰」が「まけておきました」を修飾することによって、(7) における動作主はある目的のために「負ける」という行為をしたニュアンスが感じられる²¹。以上の要素も

²⁰ 『大辞林』によると、「わざと」の意味は、「自然に、または偶然にそうなるのではなく、意識してそうしようと思つてするさま。わざわざ。故意に」。その例：「わざとこわす」。つまり、「わざと」が用いられる文では、動作主が意志的にある行動を行うことがわかる。

²¹ インターネットでも「わざとまけておきました」という実例が見られる。「スポーツ界では、わざと負けたら「八百長」になってしまいますが・・・普段の生活では、わざと負けておいた方が無難な場合もあります。本気で戦ったら「自分」の方が強いとしても・・・相手が「親

合わせて考えると、(7)の「～ておく」は「～ておく」の特例でなく、「準備」を表している「～ておく」と考えることも可能ではなかろうか。

ここも前述したように、なぜ「～ておく」に多様な用法が見られるか、その論理的な説明が見られない。

1.2 森田良行の研究とその問題点

森田(1977)²²は「～ておく」を「ある目的から、あらかじめ動作や行為を行うこと」とし、「～ておく」は意志的な動詞に付き、その動作を当人の意志による行為として示すところに特徴がある」と論じている。そして、「～ておく」の用法を以下の二種類に分けた。

(I) 自分のために、事後を予想して事前にそのことを行う。

(8) 下見しておいたから安心だ。

この形式は、行った結果の状態が後まで消えずに続く²³。動作性の他動詞に付くのが普通であるが、まれに自動詞の例も見られると指摘されている²⁴。

(9) 今のうちに十分眠っておこう。

(10) 泳いでおく。

(II) 他者を前提とした行為で、他者のある状態にして、その状態をいつまでも続けさせる放任の意となる。

(11) 思うようにやらせておく。

(12) 相手を焦らしておこう。

こうして、森田は「～ておく」は意志的な動詞につき、その動作を当人の意志による行為として示すところに特徴がある」と指摘している。ところが、たとえ意志動詞であっても、「～ておく」と共起する動詞もあれば、共起しない動

の場合は、わざと負けておいた方が無難です。〈略〉

(<http://id43.fm-p.jp/20/hokkaidocc/index.php?module=viewdr&action=pdetail&date=20090411&stid=1&pw=>)

²² 森田良行、1977、『基礎日本語』、角川書店 p.124

²³ これは吉川の提出した「～ておく」のアスペクト的意味に相当するものである。

²⁴ 森田によれば、「行為の蓄積が可能な場合であれば、「～ておく」が自動詞に付くこともある」という。例えば、「泳いでおく」「遊んでおく」がその例である。

詞も見られる。例えば、「輸出する、輸入する、試合する、けんかする」など、意志動詞だが、「～ておく」が付かない。また、無意志動詞でも「～ておく」が付くことがある。「失敗する、悩む」がその代表的な例である。このように、どのような動詞が「～ておく」と共起するののかについては、まだ一概に言えない部分が残る。

なお、『初級日本語文法と教え方のポイント 2005』では、「～ておく」は「あとに起こる事柄を想像して、前もって何かをするというものである。通常、話し手自身の行為・動作に用いられる。(p. 214)」と論じられている。本論はこの論点に従って「～ておく」と共起する動詞としない動詞について検証を行うことにする。

1.3 谷口秀治の研究とその問題点

谷口 (2000)²⁵では、これまで「～ておく」の準備性を中心になされてきた様々な論考と異なり、焦点を「～ておく」の終結性に当て、そこから「事後処置」、「心理的な充足行為」、「結語」という用法を提出し「～ておく」という文法形式は、文脈上、あとのことが前提となっている場合には、準備性を色濃く持つが、逆に、あることの後に続く動作として位置づけられると、その事柄の終結的動作としての機能が前面に出てくるといえる」と論じている。その例と説明は以下のようなものである。

(I) 事後処置を表わす場合

(13) (2) (郵便局の窓口で)

A : これ、速達でお願いします。

B : 240 円です…。では、こちらで出しておきますから。

谷口によれば、(13) では「単に相手 A の手紙を「出す」という動作だけではなく、そのことによって、眼前の出来事、事態 (A の手紙を速達で送るための一連の手続き) を完了させる」というニュアンスが感じられるという。つまり、

²⁵谷口秀治、2000、「「～ておく」に関する一考察—終結性を持つ用法を中心に—」『日本語教育』104号、pp. 1-9

谷口が提出した、このような「～ておく」は、後のことのための準備というよりも、むしろ、そのこと自体を終結させるという働きを持っているものと見なしてよい。ただ、もしその終結性が「～ておく」によって表われるなら、なぜ(13)の「出しておきます」を「出します」に変えても、事情は特に変わらないということである。今後、論述を重ねていきたいものだが、郵便局の受付の人として顧客を安心させる観点から考えてみれば、「出しておきます」のほうが喜ばれるのではないかと思われる。

谷口は(13)のような「事後処置」の場合に使われる「～ておく」が「終結性」を持つと提示することに留まっている。「終結性」と「～ておく」との関連性、更になぜ「～ておく」に「準備」と「終結性」が同時に存在しうるのかについては言及されていなかった。

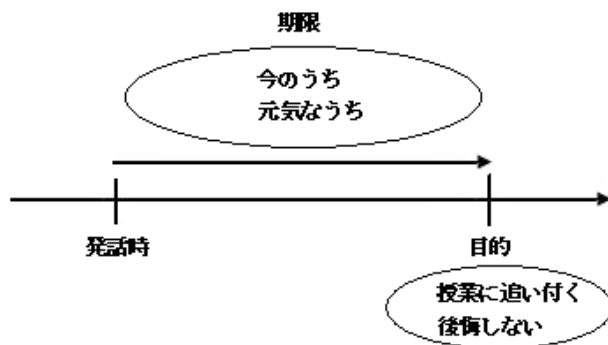
(II) 心理的な充足行為を表わす場合

(14) (7a) いまのうちに、明日の授業の予習をしておこう。

(15) (7b) 元気なうちに、富士山へ登っておきたい。

谷口では、(14)の「～ておく」に比べ、(15)の「～ておく構文」は、「あとのことへの準備的動作というよりも、ごく限られた機会の中で行為（富士山へ登ること）を完成させることによって自分自身を納得させたいといった、行為者の一種の心理的充足（完結）を表すものだ」とされている。

しかし、(14)、(15)に「授業に追い付くために」、「後悔しないように」のような適切な目的を仮定すれば、(15)は(14)と同じような要素で構成された文になるということが明らかである。[図1]で示されるように、



[図1]

(14) も (15) も発話時において、ある目的のために、ある期限までに何かを完成させたいという気持ちであることには違いが見られない。

そして、谷口は更に次の例文を挙げた。

(16) (8a) もうこの町に来ることもないだろうから、よく見ておこう。

(17) (8b) こんなうまい酒はめったに飲めないから、しっかり味わって
おこう。

谷口は、このような「残されたわずかな期間」「ごく限られた機会」の場合に「～ておく」が使用され、そして、この「～ておく」は消極的な意味での準備的動作と解釈できなくもないが、それよりも、その行為自体が話し手の心理的な充足（完結）的行為となっていると考えた方がより自然だと指摘している。この消極的な意味での準備的動作は「生涯思い残すことのないように」「あとで後悔しないように」という目的のための動作と谷口が挙げた。だが、谷口の説明からは心理的な充足と終結性/完結との関連性が見られない。

(Ⅲ) 結語として用いられる場合

(18) (12a) 最後に、以上論じてきたような観点から、「ハ」と「ガ」の機能をここでまとめておこう。

(19) (14b) (婚約の噂についてマスコミに聞かれた芸能人が) まあ、そういうことにしといてください。

(18) の「～ておく」について谷口は、「その章の「結び」としての機能を持つものであり、そのあとに続く章や節の内容に関係なく、単にそれまで述べてきたことを締めくくるはたらきを表すもの」と指摘している。しかし、「まとめておこう」という言葉の後にまとめが続くことから、先行研究に従って、それがまとめ・結びの準備として使用されると見なすことも可能ではないだろうか。

一方、(19) の「～ておく」をある目的のための準備的動作と解釈することは難しく、谷口の指摘したように、「その話を打ち切ろうとする話し手の心理を暗示するもの」としてなら理解されるものである。ただし、(19) は、マスコミが

聞いていることは、聞かれた芸能人にとっては不都合な話であるため、マスコミの推測や判断に任せようと芸人が対話のストラテジーを取ったとも理解される。この相手に任せる意味が「放任」の意味用法に通じることから、(19)は違う観点から読めば、放任とも考えられよう。

このように、「～ておく」の意味用法の判断基準については、まだ検討する余地があると言える。

2. まとめ

この章では、これまでの「～ておく」に関する研究で言及されてきた「～ておく」の意味用法—「準備」、「一時的処置」、「放任」、「終結性」—と「～ておく」のアスペク的な意味を概観した。

吉川の研究から一つの「～ておく」には派生した多様な用法があることがわかった。このことは一方においては「～ておく」に基本的な機能があることも示唆されている。また、吉川が特例としている文でさえ「準備」と解釈されうることから、「～ておく」の多様な用法には、やはり何か共通的に中核となる意味が存在しているのではないかと思われる。これは同時になぜ「～ておく」には多様な意味用法があるのかを解く鍵にもなるだろう²⁶。また、「～ておく」は前に来る動詞の種類によって違う意味が派生するとあることから、「～ておく」と共起する動詞の種類を検討も怠れないことと察せられる。このようなことを念頭に置きながら、第四章では具体的に「～ておく」を考察していく。

谷口は違う角度から「～ておく」の研究に着手し、目的の有無だけでなく、「～ておく」はあることが発生した後に使用されるのか、あるいは、その前に使用されるかによって、「終結性」のあるなし、及び「準備性」と「終結性」との違いを説明した。しかし、1.4で述べたように、(15)と(19)のような「終結性」が読み取れる文であっても、それぞれ「準備」、「放任」の用法になる可能性がある。そして、一見矛盾している「準備」と「終結性」が同時に「～ておく」に存在することなど、「終結性」と「準備」「放任」との関連性は今一つ明らかでないところがある。

このように先行研究を踏まえ、「～ておく」の意味用法に関する本論なりの

²⁶詳しくは第三章で論じる。

立場を提示したいが、その考察に入る前、第三章で「～ておく」と共起するする動詞としない動詞から「～ておく」の使用制限を明らかにできればと考えている。

第三章 「～ておく」と共起する動詞の意志性の有無

先行研究では、「～ておく」の前接動詞は基本的に意志動詞に限られると論じられている。例えば、第二章の1.2でも述べたが、森田は「「～ておく」は意志的な動詞につき、その動作を当人の意志による行為として示すところに特徴がある」と指摘している。また、『現代日本語文法③』では、「～ておく」について「「しておく」の主体は人であるのが普通であり、動詞は意志的な動作を表すものに限られる」²⁷と述べられている。そして、「～ておく」は意志的な動作と共起しやすい意志表現であるため、一般的に動作主に立つのは話し手であると言われている²⁸。

ところが、第二章の1.2で述べたように意志動詞で「～ておく」と共起しない動詞（例えば、「輸出する、輸入する、試合する、けんかする」など）、無意志動詞²⁹で「～ておく」と共起する動詞（例えば、「失敗する、悩む」など）も見られる。

無意志動詞が「～ておく」に前接する実際の用例は次のようなものである³⁰。

- (1) 定期試験などで良い点をとるにはどうすればよいか、その一つの答えは、本番で間違わないように事前に間違えておくことです。

(www.shinmeijuku.jp/course/junior-high-school.html)

- (2) 大なり小なり、誰でも失敗はするし、失敗を恐れて行動しないのは良くない。俺はむしろ小さいうちに失敗しておくほうがいい場合も少なくないと思っています。大事なのは失敗した後だよ。

(<http://www.110upweb.com/interview/sanada.html>)

また、インターネットで調べた限り、「騙す、近寄る、這う、引越す、試

²⁷ 日本語記述文法研究会、仁田義雄（代表）、2007、『現代日本語文法③』、p. 51、くろしお出版

²⁸ 『初級日本語文法と教え方のポイント 2005』では、「～ておく」は「あとに起こる事柄を想像して、前もって何かをするというものである。通常、話し手自身の行為・動作に用いられる。（p. 214）」と論じられている。

²⁹ 意志動詞か否かの判断基準は『日本語基本動詞用法辞典』による。

³⁰ 全体的には「意志的表現」と規定するならば、理解されるものかもしれないが、「意志的表現」は具体的に何を意味するのかとも関係するけれど、今後の課題としたい。

合する、輸入する」は意志動詞だが、無意志動詞の「間違える、失敗する」より「～ておく」の接続件数が遥かに少ないことも見出されている。

このように、「～ておく」の意味用法を考察する前に、「～ておく」と共起する動詞としない動詞の実態を調べなければならないと思う。

先行研究だけでは説明できないこの現象を調べるため、『日本語基本動詞用法辞典』にある動詞に限定し、動詞の意志性の有無も『日本語基本動詞用法辞典』の記述に従い、『新潮百冊』、『青空文庫』、インターネットを通し、意志動詞で「～ておく」と共起しない、無意志動詞で「～ておく」と共起するものの多寡とそれらの特徴を調べてみた。その結果、『日本語基本動詞用法辞典』に見られる728個の動詞のうち約7割強の動詞が「～ておく」形を取ることができることがわかった。そのうち、意志動詞で「～ておく」と共起しないものは32個、無意志動詞で「～ておく」と共起することもあるものは7個である。詳細は以下1.に譲る³¹。

1. 「～ておく」と共起しない動詞

[有対自他動詞の自動詞]：建つ、破れる……

「建つ」は建物が作られることを表して、「破れる」は紙や布が裂けたり、穴が開いたり、元の形が壊れたりする意味を表している動詞である。どちらも無情物の状態を表現する無意志自動詞である。そのため、話し手が行為を取ることを表す「～ておく」とは矛盾しており、「～ておく」と共起できないはずである。そして、実際「建っておく」「破れておく」は成立しない。

[無情物が主語に立つ自動詞]：降る、咲く、茂る……

「降る」「咲く」「茂る」、いずれも自然界の物の変化状態を表現する、人間が制御できない動詞である。そのため、意志的にある行為を取ることを表す「～ておく」がこのような動詞にも付かない。

³¹ 「～ておく」形を取るか否かのテスターとしては、主に『新潮百冊』『青空文庫』またはグーグルといった検索エンジンでの使用数によって判断するが、個人差があるので、中には必ず「～ておく」になれるか、必ずしもなれないかという可能性もある。

[人間以外の生物が動作主に立つ動詞]：鳴く、吠える……

「鳴く」「吠える」のような人間以外の動物が普通話し手・書き手にならないので、一般的に言うと「～ておく」の前に現れない。

[感情動詞]：あきれ、驚く……

感情動詞は、動作主が人間であることに当てはまるものだが、「～ておく」とは共起しない。感情動詞は瞬間において発生する、制御できないもので、意志的に行うことが考えられない。そのため、「～ておく」は感情動詞と共起しないのである。

[話し手が動作主ではない動詞]：いらっしゃる、おっしゃる、下さる、……

「いらっしゃる、おっしゃる、下さる、召し上がる、なさる」といった尊敬語や、人が自分にまたは自分側の人にもものを与えることを示す「くれる」が「～ておく」形を取らない。

尊敬語は人の行為を高めて言い表す表現である。一方、「～ておく」は話し手自身の行為にしか使えないため、自分には使えない尊敬語は普通「～ておく」と共起しない。そして、「くれる」も視点の問題、つまり動作主が他者に限る動詞は「～ておく」形にならない。

このように総じて言うと話し手や書き手が動作主にならなければ「～ておく」が使用できないことがわかる。しかし、実際の用例の数は少ないが、他者への助言、忠告、勧めを表す「～たほうがいい」「～といい」「～べき」の文型には、「敬語動詞＋ておく」が使える場合もある。次はその例である。

- (3) いずれにせよ、前もっての下調べは、公式サイトでなり、個人的に紹介なさっているサイトでなり、充分すぎるほどになさっておくべきだと思います。

(<http://ayanosuke.sakura.ne.jp/top/michikusa/sono27.html>)

- (4) 交通事故だと相手や相手の保険会社との交渉も有るので、しっかり検査をなさっておくと良いと思います。

(<http://plaza.rakuten.co.jp/ncc1111/diary/201006140000/>)

一見 (3) (4) の話し手が動作主ではないから、「～ておく」は使えないように思われるが、「～べきだ」「～と良い」は相手にある有益な行為を行うように提案する表現であり、ある意味相手の立場に立つ発言と見ることができるから、「尊敬動詞+ておく」が使われるようになったのかもしれない。

更に言うと、他者への助言、忠告、勧めを表す場合であれば、他者の立場になって「～ておく」を使用することが可能となる。例えば、次の (5) に見られるように、書き手が読者に式典費用を確認するように勧めている例である。

- (5) 式典費用については、何が費用に含まれ何がオプションなのかが葬儀社によって違うので、その点も確認しておくとよいでしょう。(『葬儀の費用』)

以上のように、「～ておく」が付かない動詞の多くは、意志性が見出されない無情物が主語に立つ自動詞、人間以外の動物が動作主になる動詞、または制御できない感情動詞である。また、話し手以外の人動作にしか使えない動詞も基本的に「～ておく」と共起しないが、他者への忠告・助言・勧めを表す表現の場合、話し手が動作主ではなくても成立する。このように、いくつかの例外を除けば、先行研究で論じられているように「～ておく」の主体は話し手に限ることがわかった。

だが、前述したように意志動詞なのにあまり「～ておく」との共起が見られない、また無意志動詞なのに「～ておく」と共起する動詞の存在は相変わらず問題として残っている。以下、いくつかの例を挙げて比較することにする。

2. 「～ておく」と動作主の複数性

「輸出する、輸入する、けんかする、争う」の類の動詞は意志動詞だが、「～ておく」に前接するケースは稀にしか見られないようである³²。

1. では、「～ておく」の動作主は基本的に話し手に限ることを述べたが、「輸入する、輸出する」はその特徴としては単純の個人行為ではなく、組織・会社

³² この中、最も少数なのは「けんか(を)する」で、グーグルでの用例数は一桁のみとなっている。

などで集団的に決められることである³³。「輸入する、輸出する」のような複数動作主を要求する動詞は、個人的な意志表現を表す「～ておく」と矛盾が生じ共起しにくいのである。

「けんかをする、争う」の類の意志動詞は、「輸入する、輸出する」のように組織・会社などで集団的に決められてから行う動詞ではないが、自分とは違う縄張りにいる人が必要な行為であれば、お互い（敵と）の意志性が一致した上で成立することは想像しにくい。そのため、これらの動詞と「～ておく」と共起する例はあまり見られないと考えられる。

ところが、同じ二人でなければ成立できない動詞－「結婚する」－なのに「～ておく」と共起する用例が数多く見られる。次の例を見てみよう。

- (6) 結婚しておくことが、ご両親を安心させるのでしょうか。ご両親は、将来の介護も期待しているに違いありませんね。

(<http://soudan1.biglobe.ne.jp/qa4550473.html>)

上の例からわかるように、「結婚しておく」は両親を安心させる行為（「対処行為」）³⁴である。この文における「結婚しておく」には全然違和感がない。ここでまた複数動作主による行為の意志性に戻って考えてみよう。

「けんかをする、争う」という行為は相手の意向に構わずに一方向的に仕掛ける。「結婚する」は複数の動作主による意志と言っても一般的に二人の共同意志の上で行われる行為である。この点で「けんかをする、争う」などと違い、このような他者との意志が一致し、お互いに有益な行為を取る動詞は相手と同じ立場に立つなら、「～ておく」に前接することができるようである。しかし、例えば、何かを狙って好きでない人と結婚するのも、強いられて結婚するのも実

³³ 『大辞林』では「輸出する、輸入する」の解釈について以下のように記述されている。

輸出する：自国の品物・技術・制度・文化などを他国へ送り出すこと。特に、自国の商品を他国へ売ること。

輸入する：他国の品物・技術・制度・文化などを自国へ取り入れること。特に、他国の商品を自国へ買い入れること。

なお、中国語では話し手自身が「輸入する」「輸出する」の動作主になることもあるが、日本語の「輸入する」「輸出する」は動作主を話し手自身（個人）としない。

³⁴ 本論では、生起可能なことまたはある事柄を解決・実現するための手段を「対処行為」とする。「対処行為」について、詳しい記述は第四章の 3.1 で行う。

際にあることである。これについては3.1.3で考察を試みる。

3. 動作主への有益性と無意志性動詞

「～ておく」は主として話し手が意志的に未実現の行為を取るもので、話し手が意志的にある行為を取ることで、害をもたらすような行為をわざわざ意志的に執り行うことが考えられない。そのため、「～ておく」行為は動作主にとって有益な行為と推測される。逆に言うと、動作主にとっては有益な行為でなければ、意志的に取るはずもないと考えられる。この有益な行為を説明するために、極端な例を見てみよう。

- (7) 老衰までいけたらいいけど、その途中で病死、焼死、水死、圧死、刺殺なんかになっちゃう可能性は高いからな。高確率で俺も苦しんで死ぬのかなあ、って考えたら嫌になる。よっぽど楽な自殺方法が利用できるなら、あらかじめサクッと死んでおくのが良かったりするかもな。

(<http://logsoku.com/thread/anchorage.2ch.net/occult/1244181206/>)

- (8) だから、母の命が尽き、葬儀やら一連のタスクが済めば、それ以降に僕にはやることは無いし、長生きしたいとも思わない。だってあの時死んでおくべきだったのだから。

(<http://leftyimpostor.jugem.jp/?eid=240>)

上の例に示したように、話し手の話から「死ぬ」というのは自分自身にとっては悪いことではなく、むしろある苦境から抜け出すための有益な手段と読み取ることができる。このように、たとえ世間的に良くないと評価されるマイナス行為であっても、人それぞれの事情により、有益な行為とされ、前もって適切な「対処行為」として行うことも可能である。

ここで述べている有益な行為をもう少し解釈することにする。

- (9) 気の済むまでやらせておけばいいのでしょうか。まあ、うつ病患者はほうっておくが一番ですね。余り構わない方がいいのかもしれない

せん。(http://ameblo.jp/poloncolon/entry-10153386126.html)

一見、うつ病患者の家族として何もせずただ「ほうっておく」のは、非常に消極的な態度のようであるが、実際「ほうっておく」は病気には有効な手段であると家族が捉えているのである。このように、「～しておく」による行為は話し手にとって有益な行為と言えよう。

「失敗する、悩む、間違える、疑う」はいずれも『日本語基本動詞用法辞典』では無意志動詞として扱われている。このような無意志動詞は「～しておく」と共起することができないものと思われたが、インターネットで次のような用例が見られた³⁵。

(10) 定期試験などで良い点をとるにはどうすればよいか、その一つの答えは、本番で間違わないように事前に間違えておくことです。(=

(1) 再掲)

(11) 大なり小なり、誰でも失敗はするし、失敗を恐れて行動しないのは良くない。俺はむしろ小さいうちに失敗しておくほうがいい場合も少なくないと思っています。大事なものは失敗した後だよ。(=

(2) 再掲)

(12) 今の時期に苦しんでおいた方が来年の勉強ペースの把握がしやすくなると思います。

(http://ameblo.jp/tangmen/entry-10318887386.html)

(13) この時期に思い切り悩んでおくことが、近い未来の糧になるはず。(http://mei777.web.fc2.com/2010-scorpio.html)

(14) メディアを通して余所の文化ニッチをどこまで知ることができるのかは常に疑っておいたほうがいいだろう。実地の交流や実験を省いてメディアだけで“知った気”になるのはかなりリスクなことだと私は考える。(www.nextftp.com/140014daiquiri/htmlside/hpfiles/adjust/komagire.htm)

³⁵ これらの用例の数はそれほど多くないが、違和感が感じられない。

「間違える」「失敗する」「苦しむ」「悩む」「疑う」という行為は一般的によくはないことと思われ、自ら進んで意図的に「間違える」「失敗する」「苦しむ」「悩む」「疑う」ことは想像が付きにくく、普通それを有益な行為として何らかの目的のために事前的にする人もあまりいない。ゆえに、そのためでもあるか、無意志動詞とされていると思われる。しかし、(7)～(9)の「死んでおく」「ほうっておく」のように、(10)～(14)の「間違えておく」「失敗しておく」「苦しんでおく」「悩んでおく」「疑っておく」は話し手にとってはただマイナス面のみのことではなく、むしろそれをうまく運用すれば、将来の成功に繋がるいいきっかけになるので、「間違えておく」「失敗しておく」「苦しんでおく」「悩んでおく」「疑っておく」は(10)～(14)ではいい結果を得るのための行為と考えられる。

ここでは、先行研究に見られた「「～ておく」と意志動詞との共起」は例文(10)～(14)によって崩されたものと思われる³⁶。

最後に、2. で述べた、強制的に結婚させられる場合の用例を見てみよう。

- (15) 実は彼女は再婚になります。彼女の父親が住宅ローンで多額の借金を作ってしまい、それを返済するために結婚しておいたほうが良いからとの理由で、半ば強制的に結婚させられたそうです。ですが、元旦那は会社の金を横領し、刑務所で服役中らしいです。

(<http://life2.2ch.net/test/read.cgi/jinsei/1043840708/>)

(15) で示されるように、女の人は父親の抱えている借金を返済するために、無理にある男の人と結婚した。しかし、(15) からわかるように、強制的にさせられた場合であれ、動作主には有益な行為((15)では父親の借金を返済すること)であれば、「～ておく」の使用は可能である。

³⁶ 「～ておく」の前に現れる動詞のうち、意志動詞が大多数を占めるのは、一般的に「対処行為」とは意図的に行う行為だからだと考えられる。

4. まとめ

本章では、『青空文庫』、『新潮百冊』、インターネットを通し、『日本語基本動詞用法辞典』にあるどのような動詞が「～ておく」と共起し、どのような動詞が「～ておく」と共起しないかについて検証を行った。そして、その結果から「～ておく」と共起する動詞としない動詞の特徴を分析した。

1. では、「～ておく」と共起する動詞としない動詞を検証した。[有対自他動詞の自動詞]のほとんどは話し手が表に出ない無意志的な状態を表すものであるため、「～ておく」とはあまり共起しない。[無情物が主語に立つ自動詞]も主語に立つのは人間でなく無情物であるから「～ておく」形にはならない。「鳴く」「吠える」は意志動詞ではあるが、動物の行為にしか使われない動詞というわけで「～ておく」がこのような動詞とは共起しない。意志的な行為と共起しやすい「～ておく」は「困る」「驚く」のような制御できない感情動詞とも共起しない。「いらっしゃる、おっしゃる、下さる」などの動詞の動作主が話し手や書き手以外の者に限られ、一人称に限る「～ておく」の人称制限と矛盾するので、普通は「～ておく」形にならない。「～ておく」と共起しない動詞の特徴から「～ておく」には厳しい人称制限があることがわかる。

2. では、先行研究では一般的に「～ておく」は意志動詞に接続すると言われているが、あまり「～ておく」と共起しない意志動詞がある点について考察を行った。その結果、「～ておく」とあまり共起しない意志動詞の原因も人称制限に関わっていることが明らかになった。「輸入する、輸出する」は組織・会社などで集団的に決められるものであり、「試合する、けんかをする」は自分だけでなくライバルも含める行為であるため、動作主を話し手・書き手に限定される「～ておく」の基本的な要求と矛盾し、「～ておく」形を取ることができないのである。

3. では、まず動作主にとってプラスとなる行為の場合に「～ておく」が使用されやすいことについて述べた。ところが、一般的にマイナス行為と思われる行為でも場合によってはある特定の人にとってはプラス行為になることもある。その際には「～ておく」を用いることができる。次に無意志動詞であっても「～ておく」と共起する可能性があることは先行研究では言及されていなかったことである。取り上げられた「無意志動詞＋ておく」の例から、「対処」の意味用

法の場合、「間違える、失敗する、苦しむ、悩む、疑う」といった無意志動詞も「～ておく」形になることができることがわかる。それは将来のためもしくは何らかの目的のためにある行為を取る場合であれば、「～ておく」と共起する制限が弱くなるからである。例えば、(10)では本番の試験でいい点数を取るための方法の一つは事前に間違えておくこと、(11)では小さいうちに失敗しておくのは将来の成功のきっかけになること。このような場合なら「～ておく」は意志制限を越え、無意志動詞にも接続することができるのである。

以上のことから、先行研究で論じられている「～ておく」が意志的な動詞に付くことには不十分なことがあると言える。つまり、動作主にとってプラスとなるという条件が満たされれば、たとえ無意志動詞でさえ「～ておく」と共起しやすくなる。というわけで、先行研究では強調された意志動詞という点は満たされているかどうかは「～ておく」が動詞に接続する唯一の基準にはならないことが証明された。以下では3.1で述べた「～ておく」の意味用法について考察を試みる。

第四章 「置く」から見る「～ておく」の意味用法

1. 本動詞と補助動詞との関連性から見る「～ておく」

1.1 補助動詞に関する記述

第三章で「～ておく」と共起する様々な動詞の種類を見てきたが、これらの動詞に付く「～ておく」の意味も一様ではないようである。形式は「～ておく」一つだけなのになぜ意味用法が複数あるのか、その理由を探究するために、まずは本動詞「置く」³⁷と補助動詞としての「おく」との意味関係に着目したいと思う。

それに先立って、まずは補助動詞一般に関する記述を見てみよう。

『大辞泉』³⁸では、

動詞が、本来の意味と独立性を失って、付属的な意味を添えるものとして用いられるもの。「私は日本人である」の「ある」、「風が吹いている」の「いる」、「本を読んでいらっしゃる」の「いらっしゃる」、「迎えに来てください」の「ください」など、断定・動作の様態・敬意などを示すものとして用いられる。

また、『大辞林』³⁹では、

補助用言の一つ。動詞のうち、本来の意味・用法の独立性が薄れ、述語の下に付いて、もっぱら付属的に用いられるようになったもの。「本である」「戸があいている」「食べてみる」「お読み下さい」などの「ある」「いる」「みる」「下さい」の類。

³⁷『大辞林』において、本動詞が以下のように説明されている。「補助動詞に対して、動詞本来の独立の用法の動詞。「食べてみる」の「みる」に対して「映画を見る」の「みる」の類」。このように、本論文で扱っている「～ておく」の「おく」も本動詞として用いられる場合と補助動詞として用いられる場合がある。紛らわしい表現を避けるために、以下の記述例で表現していく。例えば、「置く」の場合は、動詞テ形に付く補助動詞「おく」を「～ておく」とし、本来の独立の用法を表す「置く」を本動詞とする。他の種類の補助動詞もすべて同様である。例えば、「くれる」の場合、動詞テ形に付く「～くれる」の「～てくれる」が補助動詞で、「くれる」が本動詞になる。

³⁸ 松村明、1998、『大辞泉』〈増補・新装版〉、小学館

³⁹ 松村明、1988、『大辞林』、三省堂

『現代日本語文法』⁴⁰の場合は、

実質的な意味を持つ動詞に対して、実質的な意味が希薄化し一定の文法的意味を添える働きをする動詞を補助動詞という。

いずれも補助動詞を動詞の本来の意味と独立性が薄れたものとしている。ただし、補助動詞の用法を観察してみると、本動詞の意味に大きく関連することが伺える。1.2では、いくつかの補助動詞の例を挙げつつ⁴¹、その関連性を述べてみることにする。

1.2 本動詞と補助動詞との関連性

① 「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」

実質的な物の授受を表す動詞「あげる」「くれる」「もらう」には方向性と恩恵性を表す機能がある。それが実質的な意味が希薄化したと言われる補助動詞として使用される時、どのように現れるか、例を挙げて見てみることにする。

- (1) 私は花子に本をあげた⁴²。
- (1') 私は花子に本を買ってあげた。
- (1'') 私は花子に本を買った。
- (2) 信二が私に本をくれた。
- (2') 信二が私に本を買ってくれた。
- (2'') *信二が私に本を買った。
- (3) 私は信二に本をもらった。
- (3') 私は信二に本を買ってもらった。
- (3'') 私は信二に本を買った。

上記の例文に見られるように、(1) (2) (3) では本の授受方向と行為がもた

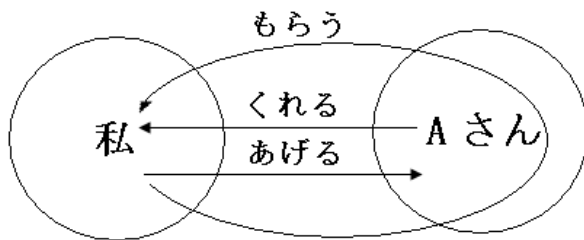
⁴⁰ 日本語記述文法研究会編、2007、『現代日本語文法③』、くろしお出版

⁴¹ 1.2 は本動詞に影響される補助動詞を中心に取り上げることにする。

⁴² 例文の後ろに出所が書かれていないものは筆者の作例である。

らす恩恵性が見られる。そして、(1') (2') では動作主が「に」項の対象に与える恩恵・利益の方向、(3') では「が」格に立つ「私」が「に」格の信二から恩恵・利益を受けることが見出される。しかし、補助動詞を抜いた(1'') (2'') (3'') のうち、(2'') は非文となり、(3'') は違う意味の文になる。(1'') については、他者に恩恵を与える意味が前面に出る「～てあげる」が使われると押し付けがましく聞こえる恐れがあるので、より一般に使われるものである。このように授受動詞である「あげる」「くれる」「もらう」が補助動詞になっても本動詞の中心的な意味は変わっていないことがわかる。恩恵・利益の表現のみならず、方向性を表す働きもまだ保たれているのである。

なお、「あげる」「くれる」「もらう」の授受関係を図示すれば、下のようになる。



[図2]

[図2] に示したように、「あげる」「くれる」「もらう」は、明確な方向性と恩恵性を持つ授受動詞で、動詞テ形に接続しても同様な機能が働き、その前項動詞（例1、2、3では「買う」）に恩恵性と方向性を補完させているのである。このように、恩恵性と方向性を持ち、授受動詞からなる補助動詞「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」では本動詞としての授受動詞の本来の意味がまだ多分に残されていることがわかる。

② 「～ていく」「～てくる」

移動を表す「行く」「来る」には空間・時間、両方の意味合いが含まれている。例えば、空間的な意味を表すものとして「日本へ行く」「日本に来る」などがある。また、時間的な意味を表すものとして「行く春を惜しむ」「春が来た」などがある。それに影響され、動詞テ形に付く「～ていく」と「～てく

る」にも二つの意味用法が見出される⁴³。一つは本動詞の意味を色濃く帯びる移動の方向を表すもので、もう一つは動作の持続した変化を表すものである。次に「～てくる」「～ていく」が付く例と付かない例を見てみたい。

まずは「移動の方向」を表す例である（(4) (4'') (5') (6')）。

- (4) ワンちゃんが来た/行った。(移動の方向)
- (4') ワンちゃんが走った。
- (4'') ワンちゃんが走ってきた/走っていった。(移動の方向)
- (5) ケーキを買う。
- (5') ケーキを買って行く。(移動の方向)
- (6) たばこを吸う。
- (6') たばこを吸ってくる。(移動の方向)

(4) は犬が自分の方へ近付いてくる/自分の方から遠ざかっていくことを表している。(4') は動作に焦点を当てて描写しているが、動作の方向が明確ではない。しかし、(4'') のように「走る」のテ形に「くる」か「いく」が付くと、犬の走る方向が自分に近付いてくるのか、自分から遠ざかっていくのかが明確になる。このように、移動性を含む「走る」のような動詞に「～てくる」「～ていく」が付くと、明確な方向性が現れる。(5) と (6) はただ動作主がある行為を取ることを表しているだけであるが、「買う」と「吸う」のテ形にそれぞれ「いく」「くる」を付けると、(5') は話し手がケーキを買ってから目的地に行く意味を表す文に、(6') は話し手がたばこを吸ってから元のところに戻るという意味が生じる。このように、(4'') (5') (6') の「くる」「いく」も本動詞の意味用法が色濃く残っている。

その一方、(7') (8') は「持続した変化」を表すものである。

- (7) 眠くなった。

⁴³ 「～ていく」「～てくる」の意味用法はもっと細かく分類することが可能である。(森田良行、1994、明治書院)『動詞の意味論的文法研究』などの先行研究において、「～ていく」「～てくる」については詳しく述べられている。

(7') 眠くなってきた。(持続した変化)

(8) 台湾はこれから若者の人口が減る

(8') 台湾はこれから若者の人口が減っていく。(持続した変化)

(7) は眠ってしまいそうな状態に変わりつつあることを表している。(7') は眠気が発生してきたことを描写している。(8) が未来起こることを表しているのに対し、(8') の「～ていく」はある状態がこれ以降も持続することを表している。つまり、(8') は、人口が減りつつある傾向にあり、今後もこの状態が持続する見通しがあることを意味する文である。「～ていく」「～てくる」は接続する動詞に移動性・方向性を与える機能がある。(7') (8') に用いられた「いく」「くる」は本来の意味が希薄化したにも関わらず、「行く」「来る」の性質を保ち、「なる」「減る」のような変化を表す動詞に付くと変化の持続を表すものになる。このように、(4'') (5') (6') (7') (8') から、前項動詞の種類によって、「～ていく」「～てくる」の意味用法が違うことがわかった。

以上の考察から、本動詞としての「置く」の意味も補助動詞に大きな影響を与えていることが予想される。次に本動詞「置く」の意味を確認した上で、「～ておく」の基本となる意義を明確にしたいと思う。

1.3 「置く」と「～ておく」との関連性

『日本語大辞典』⁴⁴では、「置く」の意味は主に以下のように分類されている。

- ①ある場所にすえる。
 - ②その状態をそのままにする。
 - ③いさせる。
 - ④保つ。
- (一部省略)

また、『現代国語用例辞典』⁴⁵では、

- ①その場に位置させる。

⁴⁴ 梅棹忠夫 1992、『日本語大辞典』、講談社

⁴⁵ 林史典他編、1992、『現代国語用例辞典』、教育社

②そのままに残す。

(一部省略)

『広辞苑』⁴⁶では、

一、すでに存在する事物をそのままにする。

①手を触れずにいる。手を加えることをしない。

②そのままの状態に残す。保存する。

二、ある位置を占めさせる。

①人や物などをある所にとどめる。

②設ける。設置する。

(一部省略)

1.2 で考察した本動詞と補助動詞との関連性から、ある動詞が補助動詞になっても、意味的に次のような現象が見られる。①本動詞として使用される時の意味がまだ残っていること、②本動詞として使用される時の意味が薄れつつも、そのある一面の働きが消えないということである。

辞典などにおける「置く」についての記述で共通しているのは、①ものや人がある場所に位置させる、②その状態をそのままにするという二点である。本動詞の意味が補助動詞に影響を与えることから考えれば、「置く」の本来の意味・機能が「～ておく」の意味用法に残っているはずである。というわけで、次に「置く」と「～ておく」両方の関連性について考えてみたいと思う。

2. 「結果の維持」を表す「～ておく」－「放置」「放任」

1. では、補助動詞の意味用法は当該動詞が本動詞として用いられる時の意味用法に影響されることについて述べてきた。そこから、補助動詞としての「～ておく」も本動詞「置く」に影響されるものと推測される。以下 2.からは、本動詞「置く」に近いと思われる「～ておく」の意味用法から順に考察していきたいと思う。

⁴⁶ 新村編、1991、『広辞苑』第四版、岩波書店

2.1 「放置」

「置く」はあるものや人をある場所に位置させ、その状態を持続させる機能を持っている動詞である。2.1では、まず「置く」の意味に最も近い「～ておく」の意味用法から、「～ておく」が付く動詞の特徴を見出したいと思う。

- (9) 机の小引出しに白紙にくるんで大切にしまっておいた二枚の貝殻は、広げるたびに、あのほのかな潮の香りを伝えてくれた。はるかな水平線に続く淡い香りだった。

(『若き数学者のアメリカ』藤原正彦)

- (10) 自転車に鍵を掛けずに止めておいたところ盗まれました。

(<http://www17.ocn.ne.jp/~bouhan/jiken-sokuho18-1.htm>)

- (11) 学生の頃にお気に入りの傘を傘立てに立てておいてさんざんパクられたんでもうビニ傘以外買わないことにしているのですが、(略)

(<http://winxwincollabo.livedoor.biz/archives/50853362.html>)

(9)～(11)の「～ておく」が付く動詞－「しまう」「止める」「立てる」－はいずれもものをある場所に置くと、しばらくの間そのままに存在させるという意味合いを持っている。そして、この三つの動詞にもう一つの共通点がある。それはものが置かれる場所を示す「に」格と共起することである。次の諸例は同じ類の動詞による「～ておく」の用例である。

- (12) 私は眠っていたわけでもないし、したがって目覚し時計をセットしていたわけでもなく、たまたまキッチンのテーブルに目覚し時計を置いておいたというだけの話なのだ。

(『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』村上春樹)

- (13) ほら穴の近くの、はんの木の下でふりかえって見ましたが、兵十は追っかけては来ませんでした。ごんは、ほっとして、うなぎの頭をかみくだき、やっとはずして穴のそとの、草の葉の上にのせておきました。(『ごん狐』新美南吉)

- (14) 小料理屋のおかみが、ハンガーにかけておきましょうと言うので、

背広の上着を渡したとき、内ポケットから封筒の一部が見えました。不審に思って中を覗くと、一万円札が十枚入っていました。令子がそっと入れておいたのです。(『錦繡』宮本輝)

(12)～(14)の「入れる」「のせる」「置く」も(8)～(10)の「しまう」「止める」「立てる」と同じように「対象をある場所に位置させる」意味を持つ動詞である。いずれも①放置する場所が必要で、表現する際にも場所成分は必要成分となる。②何かを置いてからしばらく、またはずっとその状態を持続させるという特徴が見出される。本論では、この種の動詞を「放置動詞⁴⁷」と呼ぶことにする。事実、「置く」も同じような特徴を持ち、この「放置」に属するものと思われる。このような「置く」が他の「放置動詞」のテ形に付いて前項動詞の放置性の意味を強めていると考えられる。このような「～ておく」の機能を「放置」とする。

また、(9)(10)(11)(12)から見られるように「放置」用法の行為者はほぼ「私」であるが、(13)(14)のような地の文では話し手・書き手が動作主の意を汲み取り、動作主となって表現することもある。

このように、「～ておく」の前に「放置動詞」が現れる場合、本動詞「置く」の意味は「放置動詞」の意味と一致しているため、「放置」の意味が強化されることになる。2.2では、本動詞の意味がやや希薄化する「～ておく」の意味用法について考察を進める。

2.2 「放任」

先行研究では、「そっとする、ほったらかす、放る」のような動詞に「～ておく」が付く場合、「～ておく」が「放任」を表す意味になりやすいと論じられている。『大辞泉』によれば、「放置」は

「そのままにしてほうっておくこと。所かまわず置きっぱなしにしておくこ

⁴⁷ 本論では『日本語基本動詞用法辞典』に収録されている動詞をもとに、「放置動詞」の条件に当てはまる動詞として、「築く、立てる、設ける、渡す、つける、埋める、貼る、重ねる、掲載する、取り付ける」などを取り出している。

と。」一方、「放任」に関しては「干渉しないで、したいようにさせること。」

「放置」は動作主が何かをある場所に位置させ続ける意味を示す。それに対し、「放任」は動作主が相手のやりたいことをさせて干渉しない、またはその状態を変えないでそのままにすることを意味する。その結果の状態を持続させる点においては「放置」と「放任」が共通しているものと言える。ただ「～ておく」の前に来る動詞の意味が放任的である。また、「を」格に「人間」が来る場合もあるといった点で前項の「放置」と異なりを見せている。本論では「そっとする、ほったらかす、放る」のような放任の意味を表す動詞を「放任動詞」とし、前項の「放置」と同様、「あるものをある場所に位置させ、その状態を持続させる」働きは、「放任動詞＋ておく」にも反映されている。次の例文を見てみよう。

(15) 今、雨の中で泣きわめいている男を放っておくことには、やはり一種の快感があった。(『沈黙』遠藤周作)

(16) さりとてこの自殺は私の力でどうすることもできないことが分っているので、ほったらかしておいたのである。寧ろ、これまでの例で言うと、なまじいに留めだてに類することをしたばかりに却って死に急がせる結果をまねいたこともあるので、私としては、ほったらかしておくほかに手段がなかったのである。(『長島の死』坂口安吾)

(17) わかっていますよ。おかあさん。もうしばらくそっとしておいて。ぼくは、今すばらしい森の中を歩いているんだから。(『四下』吉川)

(15) では「男が泣きわめいている」ことに干渉せずにやらせていることに放任性が感じられる。(16) では他者が何回も自殺したため、話し手がしかたなくほったらかすという消極的・放任的な手段しかないとしている。(17) では、話し手がお母さんに散歩していることを邪魔しないでくれるようお願いし、現状を維持しようとする意を示している。

このように、2.1 で取り上げている「放置動詞＋ておく」による用例と「放任動詞＋ておく」による(15)(16)(17)は動作の結果状態の維持に相違点はないが、「～ておく」が付く動詞の種類が異なることによって意味用法が微妙に

違ってくることが考えられる。

本論では、これらの条件に当てはまる「放任動詞」に付く「～ておく」の意味用法を「放任」とする。

また、(15)～(17)から見られるように、「放任」による動作に影響されたのは人間だけだが、次のように放任する対象が人間ではない場合も見られる。

- (18) 植皮が必要なのになおらないまま傷をほうっておいた場合は、いつまでもかわかないでいわゆる潰瘍をつくります。この潰瘍をまた何年もほうっておくと、いったんはかわいてなおったようになります。(http://www.woundhealing-center.jp/faq/yakedo_q7.html)

(18)で示されるように、正しい傷の手当てとして植皮が必要なのに、それを無視し続けると傷が潰瘍になる恐れがある。この場合の「ほうっておく」＝「放任動詞＋ておく」は動作主がちゃんとした処置を受けずに自分の傷（の悪化）を放任する行為に放任性が感じられる。このように、悪い状態もしくは悪い状態になるのを知りつつも、そのまま何の手も打たずにいる状態に用いられる「～ておく」も「放任」になるのである。

以下では、もう少しほかの「放任」を表す「～ておく」の例を見てみよう。

- (19) このときに際して、日本の婦人はその事業を男子のみに任せておくことなく、「時代を産む母」としての任務を自覚して立ち上らねばならないのである。(『女性の諸問題』倉田百三)

- (20) 相手を焦らしておこう。(森田(1977)例)

(15)(16)(17)に比べたら、(19)(20)の「任せる」と「焦らす」は比較的、動作主の積極性が見出される点に違いがあるが、話し手が放任する対象—「男子」「相手」—がどのような行為をしているのかは読み取れないようである。しかし、文の意味から考えてみれば、(19)では日本の婦人は男子にそのまま事業を任せてはいけないことに気がついており、(20)では相手がじれったく思っている状態を持続させようとしている。(19)(20)ともに「放任」の状態を持続

させる機能が見られる。

また、動詞自体に「放任」の意味が含まれる「放任動詞」のほか、次例のように強制・許可の意味を表す動詞使役形に「～ておく」が付く場合でも、「放任」の意味になる。

- (21) 言いたい奴には言わせておけ。(森田 (1977) 例)
- (22) この行為を優しさと勘違いされた遼太郎は、面はゆい。このまま勘違いさせておこう。(恋人よ)
- (23) 神様！これでも悪人をはびこらせておくのですか。(『放浪記』林芙美子)
- (24) 自分の同胞だって「好きなように墮落させておくよ」よくこんな妙なことを言っていた(『<http://d.hatena.ne.jp/yomin/20070719>』)

のように、動詞使役形は「～ておく」が付くことによって、誰かに一定の期間ある動作を続けさせる、または、ある状態を保たせ続ける。(21)～(24)に用いられている「～ておく」はいずれもある人の行為に干渉せずに持続させる意味を表している。もちろん、(21)(22)の「言わせておけ」「勘違いさせておこう」が働きかける対象がはっきりしているのに対し、(22)の「墮落させておく」「(23)「はびこらせておく」が働きかける対象は、本当に「墮落する」「はびこる」に相当する行為をしているか否かは文から読み取れない。しかし、話し手が何らかの根拠に基づき、相手がそのような行為をしていると主観的に判断した上で、「放任」の意味を表す「～ておく」を用いているように思われる。このように、「使役動詞＋ておく」－「放任」－の使用上に話し手・書き手の判断が強く含まれる特徴が見られる。

以上の考察から、「～ておく」の意味用法として「放任」も「放置」も動作の結果状態の持続で、両者の主な違いは前に来る動詞が「放置動詞」か「放任動詞」または「使役形」になるかどうかによることがわかる。

2.3 まとめ

2. は 1. で補助動詞の用例から見た本動詞が補助動詞に影響を与えることを踏まえ、「置く」の意味に近い「～ておく」の意味用法について検討した。「～ておく」と共起する動詞から「放置動詞」と「放任動詞」を取り上げ、「放置動詞」に付く「～ておく」の意味用法を「放置」、「放任動詞」に付く「～ておく」の意味用法を「放任」とした。

2.1 で考察したことから「放置動詞」のテ形に「おく」が付くと、放置性が強化されることがわかった。したがって、「放置動詞＋ておく」に働きかけられる対象がある状態を維持しているニュアンスが強い。そこから「～ておく」が「置く」の意味に影響される痕跡が見られる。

2.2 で「放任動詞」もしくは動詞使役形に付く「～ておく」は放任の意味を表すことについて述べた。「放任」を表す「～ておく」の用例から結果状態を持続させる機能が見出される。この点においては、「放置」と「放任」は機能的に一致するものである。本論ではこの「結果状態を持続させる」機能を「～ておく」の基本的な機能とする。

以下 3. では「置く」の意味がいつそう希薄化する「～ておく」の意味用法について検討する。

3. 「事柄の解決」を表す「～ておく」－「対処」

2. では、「～ておく」の本動詞「置く」の意味が希薄化していく過程で、「～ておく」が「置く」の意味に最も近い「放置」から「放任」へと変わるが、「置く」の本来の意味用法が「放任」の意味用法にも働くことについて述べてきた。当然ながら、放置動詞でも放任動詞でもない動詞も「～ておく」の前に現れることが可能である。次の例を見てみよう。

- (25) バナナ、パイナップル、メロン、パイナップルなどに舌つづみをうちながらつついていると、隣の席に坐ってきた年の頃五十くらいの、頭髪を色もあろうに薄紫に染めた婦人が私に笑いかけながら何か言ったようだった。不意をつかれて全く理解できなかったが、とにかく、おかしいことを言ったらしいので、いかにもおかしそうに笑い

返しておいた。 (『若き数学者のアメリカ』藤原正彦)

(25) は外国にいる話し手が知らない外国人の婦人に突然何か話しかけられているシーンである。話し手は婦人の言ったことがわからず、とりあえず婦人の笑顔に「笑い返す」という対処でごまかした。この場合の「～ておく」は2.1と2.2の「放置」「放任」とは違い、ある事柄を解決するための手段・方法と捉えられる解決策などに用いられる「～ておく」と見なしてよかろう。

このように「～ておく」には「放置」「放任」に入らない「～ておく」の意味用法がある。以下の3.1から3.3まではこのような「～ておく」の意味用法について考察を試みる。

3.1 「事前対処」

(26) もし旦那が発砲するところまでのぼせ上がりましても、被害がないようにと、弾丸を抜いておくことを私が思いついたのでした。

(『嵐が丘』エミリー・ブロンテ)

(27) 私は大学の頃、体育の実技に、馬術を選択したことがあった。いちおうその実技の最後の週には、障害までやることになっていた。障害をやるという日、私は少し緊張して学校へ行った。落馬して病院にかつぎこまれても恥をかかないように、下着なども着かえておいた。 (『風に吹かれて』五木寛之)

(28) 私は冷蔵庫を開けて、ウィスキーを割るために買っておいたコーラの缶をふたつ出し、グラスと一緒にテーブルにおいた。

(『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』村上春樹)

(26) で旦那が発砲すれば誰かが弾丸で怪我をする恐れがあるので、その望ましくない状況が発生しないように、話し手が弾丸を抜くという方法を取った。

(27) で話し手が最悪の状況を予想し、それに備えて適切な対策を取った。(28) でビールを買ったのはウィスキーを割るための事前行為である。このように、(26)～(28)に動作主がある目的に応じて適切な方法を取る行為が見られる。

本論では、ある事柄を解決・実現するための手段を「対処行為」⁴⁸とし、この「対処行為」に用いられる「～ておく」の意味用法を「対処」と呼ぶことにする。

また、例(26)～(28)は将来生起可能なことに備えて「対処行為」として「弾丸を抜いておく」、「下着なども着かえておく」、「コーラを買っておく」ことによって、「被害がない」、「落馬して病院にかつぎこまれても恥をかかない」、「ウイスキーを割る」ということが期待または実現ができる。時間的には目的/生起可能なことの実現より「対処行為」の方が先行することになる。本論ではこのような「対処」を「事前対処」と呼ぶことにする。

目的を表す「ために」「ように」といった表現が未実現の生起可能なことなので、それを実現するための「対処行為」との時間的な位置付けが「対処行為」のほうが先行するということが考えられる。そのため、「ために」「ように」がある文は「事前対処」を表す「～ておく」と共起しやすい。

また、

- (29) 車の揺れは妊娠後期の女性には毒だと思うので、揺れの少ない車をどこかで借りるように遼太郎に今夜言っておかなければ。(恋人よ)

のような、「車の揺れは妊娠後期の女性には毒」が原因で、話し手がそれを防ぐために「対処行為」を取ることから(29)に用いられた「～ておく」も「対処」と捉えることができる。更に、生起可能なことと「対処行為」の成立時点で観察の焦点を移すと、(29)の話し手が取る「対処行為」は、時間的に「車の揺れは妊娠後期の女性には毒」より早く成立するので、(26)～(28)と同様に「事前対処」を表す「～ておく」に属することが考えられる。

このように、理由・原因がこれからの生起可能なことに繋がる場合に予め取る「対処行為」は「～ておく」と共起することが可能である。

更に、

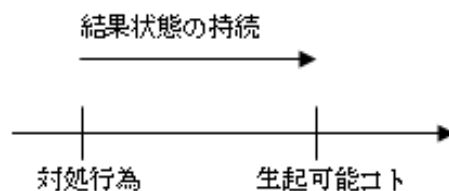
⁴⁸ 『大辞林』(1992)では「対処」が「ある事に対して適当な処置をとること」と説明されている。本論はこの説明に従い、「対処行為」による構文に用いられる「～ておく」を分析する。

- (29) 「私は、賞には興味ない」
「そんな。先生、これから先の活動を考えても、今賞を取っておく
のは悪くないと思います」(LOVE STORY)
- (30) 産後の働けない時期を考えると、今のうちからあと一人ぐらい雇
っておいた方がいいかもしれない。(恋人よ)
- (31) あ、そうだ。今度の誕生日、私が先生のことをボートに乗せてあげ
ます。それまでしっかり練習しておきますから。(白い影)

(29) も (30) もこれから先のことを考え、それに備えて事前に適切な行為を取ったほうが良いという意味を表す用例である。今の時点に立ち「これから先の活動を考えて」「産後の働けない時期を考えると」、今のうち「賞を取る」「あと一人ぐらい雇う」という「対処行為」を取る。一方、(31) では話し手が「先生をボートに乗せる」という目標を達成するために、今度の誕生日まで「練習する」という「対処行為」を取る。このように、「対処」はこれから起こる可能性があることに備えて事前に行う行為に見られやすいのである。

以上、「事前対処」を表す「～しておく」はどのような文に現れるかについて考察した。用例を通し、この種の「～しておく」を用いる条件として、話し手が生起可能なことへの「対処行為」を行うのが必要であることがわかる。そして、「対処行為」が行われてから、生起可能なことが成立する/成立しないまでの間に結果状態の持続が見出される。「対処行為」と生起可能なこととの関係を時系列に示せば、次の図が得られる。

「事前対処」



[図 3]

3.2 「事後対処」

3.1 では「対処行為」と生起可能なことの成立順序を中心に「事前対処」について考察を行ってきた。ところが、実際「対処」を表す「～ておく」の用例に対処されるべき事柄が先行し、それから「対処行為」を取る用例も見られる。

(32) 「来るときの電車のなかで、会ったらいろいろ話そう、と思っていたが、なかなかうまく話が出てこなかった。またの機会に話そう」
「俺達のあいだでは、話しあいの場というものが、とうの昔に消えてしまったよ。だから、今後も、話しあわねばならないことはなにひとつないと思う。しかし、今日、こうしてきてくれたことにたいしては、有難う、と礼を言いたい。花は仲間にもわけてやり、部屋に飾っておくよ」(『冬の旅』立原正秋)

(32) で示されたように、話し手が「飾っておく」と言ったのは、もう二度と会いたくない相手からの好意に応えるための「対処行為」である。そして、その行為を行う時点はその場（発話時）ではなく、発話後しばらく経った後である。これは3.1で述べた生起可能なことと「対処行為」との間の時間順は正反対となることから「事後対処」と名付けたい。次にもう少し例を見てみよう。

(33) 「あのゲーリーはお宅のお子さん？」

と聞くと、案の定、

「そう、何かしましたの」ともう心配そうな顔をしている。

「いや、皆が遊んでいるところをちょっと見ていたら、じゃまだ、消え失せろ、と怒鳴られちゃいましてね」と笑顔で言うと、

「まあ、そんなこと。どうもすみません、本当に。あとで十分叱っておきますから」と申し訳なさそうに謝った。

(『若き数学者のアメリカ』藤原正彦)

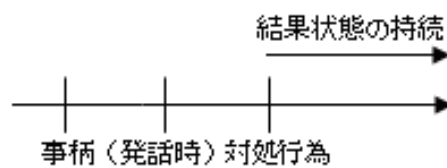
(34) 「いや、俺は読まない。厚子からきいたのさ。まったくやりきれねえな。早くここから出たいよ。おい、ところでよ、利兵衛が、逃走の相談を持ちかけてきたんだ」安は声をおとして、ちょっとあたりを見

まわしながら言った。「よしの方がいいよ」行助は即座に応じた。「寺西の泣き虫が、すぐ応じたんだ」「きみも応じたのか?」「いや、応じはしないが、考えておく⁴⁹、と答えておいた」(『冬の旅』立原正秋)

例からわかるように、これらの「対処行為」は何らかの事柄が成立した後に成された、または成される行為であり、「対処行為」を引き起こした事柄との時間的な前後関係がはっきりしている。(33)では、すでに起こったことに対する「対処」は直接の発生現場を離れてから行われる。(34)では、安は利兵衛が持ちかけてきた逃走の話に対する返事として「考えておく」と答えた。これは利兵衛と話している時の行為ではなく、その後取る行為である。

以上のことから、「事後対処」を引き起こす事柄と「対処行為」の前後関係を図示すれば、次のようになる。

「事後対処」



[図 4]

図からわかるように、既に起こった事柄を解決するための「対処行為」が成立してからもその結果状態が持続すると予想される⁵⁰。「置く」の本来の意味が希薄化するが、結果状態を持続させるという本来の機能は変わらない。

3.3 「目下対処」

3.2では、対処されるべき事柄と「対処行為」との時間順を基準に「対処」を「事前対処」と「事後対処」に分けた。しかし、時間的に「事前」でもなく

⁴⁹ この場合の「考えておく」を次の3.3で述べる「目下対処」と見なすこともできる。つまり、語用的には話し手が相手からの勧誘をその場でごまかそうとする姿勢が見られるからである。しかし、ここでは「事後対処」の特徴、つまり時間的にあることが先に起こり、その後そのことに対する対処を取るところに焦点を当てるため、それを扱わないことにする。

⁵⁰ [図4]で事柄と「対処行為」の間にある「発話時」を括弧で囲んでいるのは、地の文では発話時が現れないこともあるからである。

「事後」でもない「対処」の例文も見られる。

(35) バナナ、パパイヤ、メロン、パイナップルなどに舌つづみをうちながらつついていると、隣の席に坐ってきた年の頃五十くらいの、頭髪を色もあろうに薄紫に染めた婦人が私に笑いかけながら何か言ったようだった。不意をつかれて全く理解できなかったが、とにかく、おかしいことを言ったらしいので、いかにもおかしそうに笑い返しておいた。(= (25))

(35) は話し手が「対処」を講じたシーンである。この「対処行為」は当面の事柄に対する措置であるため、「対処行為」と事柄との時間順は「事後対処」と同じだが、時間的幅がない点に異なりを見せているという点から考えれば、(35) に用いられる「～ておく」は明らかに「事前対処」「事後対処」とは違うものである。

もう少しこのような「～ておく」の用例を見てみよう。

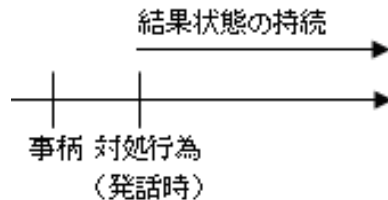
(36) 杉田 : 「お疲れ様です」
女の人 : 「お疲れ様です」
杉田 : 「瀬名先生。そろそろ、鍵、閉めますけど」
瀬名 : 「すみません」
杉田 : 「誰か忘れ物かな？誰の？これ」
瀬名 : 「あ、それ、多分、今日の、あの、斉藤貴子ちゃんのだと思います」
杉田 : 「ああ、あの子、なんかイヤねえ。ツンケンして。ピアノのガリ勉強って感じだね。じゃ」
瀬名 : 「これ、僕預かっておきましょうか」

(ロングバケーション)

(36) では、杉田が鍵を閉める時、誰かの忘れ物に気が付いた。すると、瀬名がそれを預かるとの意向を示している。瀬名の発話によって、誰かの忘れ物を

どのように扱えばいいのかという場面が終わる。

このように、「預かっておく」は当面の事柄に対する発話による「対処行為」になる。この用例には事柄、発話時、行為時という三つの要素が含まれており、それをまとめて次の図に示す。



[図 5]

に示されたように、話し手が誰かに当面の事柄に対し何らかの対処を講じようと話すことが最も大きな特徴である⁵¹。そして、対処されるべき事柄が先行し、発話と対処行為がほぼ同時に成立する。例えば、(35) (36) では、話し手は当面の事柄に対し、即座に「笑い返す」「預かる」という「対処行為」を取るように発話する。行為の成立によって当面の事柄がしばらくおさまるまたは解決される。そして、「おく」の基本的な機能—結果状態を持続させる—なお保たれている。このように対処されるべき事柄、発話、対処行為の時間的な関係を考え、発話と対処行為はほぼ同時であることから、本論はこの場合の「～ておく」の「対処」を「目下対処」とする。

以上、事柄の発生時、行為時、発話時を基準に「対処」を「事前対処」「事後対処」「目下対処」に分類し、それぞれの特徴を述べてきた。以下 3.4 では、「対処」とも「放置」「放任」とも認められうる可能性について検討を行う。

3.4 「対処」と「放置」「放任」との関連性—「処置」

3.1 から 3.3 にわたって「～ておく」の基本的な機能に基づき「～ておく」の意味用法について考察を行ってきた。本動詞「置く」の意味の強弱変化にしたがって、「～ておく」の意味用法が「放置」「放任」から「対処」へと漸次的に変化している。それにも関わらず、「放置」「放任」及び「対処」の「事前対

⁵¹ [図 5] で「対処行為」の下にある「発話時」を括弧で囲んでいるのは、地の文では発話時が現れないためである。

処」「事後対処」「目下対処」には共通している機能—結果状態を持続させる—があると思われる。それと関連するか、動詞の種類によって決定される「放置」「放任」の「～ておく」も「対処」の用法と解釈されることが可能となるのである。次の用例で、「放置」「放任」と「対処」との関連が見出されよう。

(37) 気の済むまでやらせておけばいいのでしょうか。まあ、うつ病患者はほうって おくのが一番ですね。余り構わない方がいいのかもしれませんが。(9) =再掲)

(38) いいじゃないの、死にたい人は死なせておけば、そんなやつのために、君が傷付くことないよ、はやく忘れないとだめだよ。

(夢のカリフォルニア)

「ほうっておく」と「死なせておけば」の動詞はいずれも「放任動詞」の類であるため、「～ておく」との組み合わせが「放任」の意味を表している。しかし、うつ病の患者が自分の力でうつ病から脱出することが肝心なので、「ほうっておく」ことによって病状が改善される可能性があるという観点で考えると、「ほうっておく」も「対処」として見ることができる。それと同様に(38)で死にたい人の行為に対し、話し手が「死なせておけば」という聞き手へのアドバイスは「放任」でもあり一つの「対処」と捉えることもできる。

また、(39)で示されるように、

(39) 民家の庭に落ちていたようなのですが、おばさんが気を利かせて塀に(パラフォイルを)掛けておいてくださったとのこと。

(<http://www.unisec.jp/rocketboys/team5d.html>)

話者が民家のおばさんが落ちたパラフォイルを塀に掛けておいたと判断し、おばさんが一体どんなつもりで掛けたのは別として、「放置動詞+ておく」が「放置」になるはずであるが、おばさんが自分の家に落ちたパラフォイルを持ち主が取り戻せるような対処を講じたと考えれば、(39)の「掛けておいた」が「対処」になる。

以上から、「対処」は話し手がある事柄に応じて講ずる手段・方法を表し、「放置」はものをある状態のままある場所に位置させ、「放任」は状態を続けさせるといった意味用法の違いが存在するように見えるが、三者には共通する「～ておく」の機能があるため、「対処」とも「放置」・「放任」とも認定されうる事が可能である。本論ではこれを「処置」とする。

ところが、「放置」「放任」と「対処」との認定可能にも制限がある。

(40) 「俺達のあいだでは、話しあいの場合というものが、とうの昔に消えてしまったよ。だから、今後も、話しあわねばならないことはなにひとつないと思う。しかし、今日、こうしてきてくれたことにたいしては、有難う、と礼を言いたい。花は仲間にもわけてやり、部屋に飾っておくよ」((32) =再掲)

(41) 私は眠っていたわけでもないし、したがって目覚し時計をセットしていたわけでもなく、たまたまキッチンのテーブルに目覚し時計を置いておいたというだけの話なのだ。(『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』村上春樹)

(40) の話者の言い方から相手からの花を「飾っておく」行為はただの「放置」ではなく、それをどのように扱う「対処」を表している。ゆえに、(40)「放置動詞+ておく」から構成された文でありつつも、「放置」としては考えにくい。一方、(41)における「置いておいた」は、放置動詞の「置く」+「～ておく」の組み合わせが放置性を強めることもあり、偶然を意味する「たまたま」が「置いておいた」を修飾するため、話し手が意図的に取った「対処行為」とは連想しにくい。

以上、「放置」「放任」「対処」には共通する機能があることにより、「放置」「放任」とも「対処」とも認められうる事が可能であるが、「～ておく」を修飾する副詞や文の意味によって認められうる事ができない場合もあることがわかった。

3.5 まとめ

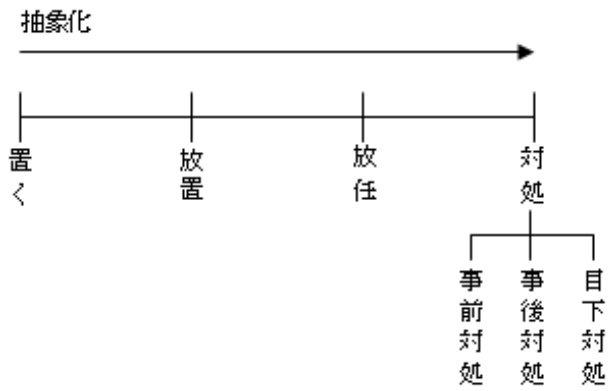
「置く」の意味を色濃く帯びる「放置」「放任」に対し、3. ではそれが希薄化された「対処」を表す「～ておく」を対象に、その特徴とあり方を考察した。

「対処」が成立するには、事柄を解決・実現する「対処行為」は不可欠な要素である。3.1 では、「対処」の下位分類—「事前対処」—について検討を行った。「事前対処」が成立するには、時間的に生起可能なことより「対処行為」の方が先行する。用例から「事前対処」は「ために」「ように」といった未実現の事柄を意味する目的表現と将来のことを考えて何らかの方法・手段を取る理由を表す「ので」などと共起しやすいことがわかる。そして、動作主が意図的に前もって何らかの行為を取り、その結果をある期限まで持続させるという点では、「～ておく」の基本的機能—結果状態を持続させる—が見られる。

3.2 では、「事前対処」と異なり、事柄が「対処行為」より先行する場合の「対処」を「事後対処」として検討を行った。「事後対処」の特徴として、既に起こった事柄に応じる「対処行為」が行われるのは「対処行為」を取るような発言をしてしばらく経った後である。

3.3 では、事柄と「対処行為」の成立がほぼ同時である「目下対処」について検討を行った。話し手が当面の事柄に応じて何らかの処置を講ずることを話してから「対処行為」を取るのが「目下対処」特徴である。そのため、発話と行為がほぼ同時に成立する場合は、「目下対処」になりやすいのである。

3.4 では、同じく「置く」から派生した「～ておく」の意味用法としての「放置」「放任」「対処」は「置く」の本来の意味の強弱関係があるにも関わらず、基本的な機能に変わりはないために、「放置」「放任」とも「対処」とも認められうるということが可能なことについて検討を行った。「置く」と補助動詞となった「～ておく」の意味用法—「放置」「放任」「対処」—との関係をまとめてみると、次の図のようになる。



[図 6]

図からわかるように、「放置」「放任」から「対処」へと「置く」の意味が抽象化していく。「放置」「放任」「対処」はそれぞれ違う種類の動詞と共起することによって、違う意味用法を表しているが、同じく「置く」の意味が抽象化する過程に派生してきた連続的な意味用法であるため、「～ておく」の基本的な機能は三つの意味用法に存在し、文の意味合いによって、三つの意味用法がそれぞれ重なり合うことになる可能性もある。

第五章 「～ておく」のあり方と教授法の提案

「～ておく」は初級日本語で習得する文型である。ところが、中国語訳する時「～ておく」があってもなくても中国語訳としてはあまり変わらない場合が多い。そのため、中国語母語話者の学習者にとって「～ておく」の習得は決して簡単ではないのである。本章は、初級の文型とされる「～ておく」が初級日本語の教科書におけるあり方に基付き、台湾人日本語学習者に適する「～ておく」の学習法を提案し、更に、実際の文章⁵²における「～ておく」のあり方を検討する。

1 初級日本語における「～ておく」のあり方と教授法の提案

1.1 初級日本語教科書における「～ておく」の説明とその問題点

現在台湾で一般的に多く使われている『みんなの日本語』『新文化日本語』を例に挙げれば、『みんなの日本語』では第30課で、『新文化日本語』では第27課で「～ておく」を新出文型として取りあげられている。まずはこの二つの教科書における「～ておく」の教え方に関する記述を以下のようにまとめてみる。

『みんなの日本語』:

『みんなの日本語初級Ⅱ教え方の手引き』では第30課の「～ておく」を①ある目的に必要な事前準備、②行動が終わったあとで次回のためにしておくべき事後処置、③現状の放置に分けている⁵³。そして、「準備」から導入をし、更に「措置」と「現状の放置」に展開する。その例文は下記の通りである。

- (1) A: 次の会議までに何をしておいたらいいですか。
B: この資料を読んでおいてください。…「準備」
- (2) はさみを使ったら、元の所に戻しておいてください。…「措置」
- (3) あした会議がありますから、いすはこのままにしておいてください。

⁵² ここで言う実際の文章とは、学習者向けではなく、日本人が読む文章のことである。

⁵³ スリーエーネットワーク、2002、『大家的日本語 進階ⅠⅡ[教師指導書]』pp. 54-62、大新書局。

…「現状の放置」

『新文化日本語』：

『新文化日本語初級Ⅱ教師用指導手引き書』では、「～ておく」が「後の状態のことを考慮して、前もって準備する動作、行為を表す」とされる⁵⁴。「～ておく」を用いた教科書の例文は次のようなものである。

- (4) A：どこかへ行くんですか。
B：ええ、夏休みに旅行に行くので、新幹線の切符を買いに行くんです。
A：早いですね。
B：8月は旅行する人が多いから、今から予約しておくんです。
- (5) 添乗員：みなさん、ここで15分休憩します。ここを出発した後、
下田に着くまで休憩はありませんので、ここでお手洗いに
行っておいてください。

『新文化日本語』が「～ておく」の「準備」という用法のみ取りあげているのに対し、『みんなの日本語』では「準備」「措置」「現状の放置」という三つの意味用法を学習者に教えている。しかし、『みんなの日本語初級Ⅱ教え方の手引き』でも、大新書局が出版した『大家的日本語進階Ⅰ・Ⅱ文法解説書』でも、この三つの用法の関連性については言及されていない。ゆえに、学習者が「～ておく」を学ぶ時に、適切な使い方を把握できずにただその意味を暗記するのみである。また、「～ておく」のある文と「～ておく」のない文は、中国語訳では明確な差異が見られない場合もあるため、台湾人学習者には「～ておく」の習得が困難なものである。

次に『みんなの日本語』で取り上げられた「～ておく」の例文⁵⁵と「～ておく」が用いられない文⁵⁶を見てみたい。

⁵⁴ 新文化外国語専門学校日本語科、2000、『新文化初級日本語Ⅱ教師用指導手冊』p.91、双大出版有限公司。

⁵⁵ (6)～(8)の例文とその中国語の対訳は大新書局が出版した『大家的日本語進階Ⅰ・Ⅱ文法解説書』p.25から引用したものである。

- (6) 旅行の前に切符を買っておきます。
 <旅行前要買好票。>
- (6') 旅行の前に切符を買います。
 <旅行前會買票。>
- (7) はさみを使ったら、元の所に戻しておいてください。
 <用完剪刀之後，請放回原來的地方。>
- (7') はさみを使ったら、元の所に戻してください。
 <用完剪刀之後，請放回原來的地方。>
- (8) あした会議がありますから、いすはこのままにしておいてください。
 <明天有會議，椅子請保持原狀。>
- (8') あした会議がありますから、いすはこのままにしてください。
 <明天有會議，椅子請保持原狀。>

例文 (6) (7) (8) とそれに用いられた「～ておく」を抜いた (6') (7') (8') の中国語による翻訳がほぼ同じであるため、台湾人日本語学習者からすれば、意味上の相違を中国語の対訳で理解するのができないため、「～ておく」の用法についての把握が難しくなるのである。

このように、「～ておく」を指導する際、「～ておく」の多様な意味用法についてどのように説明するのか、台湾人日本語学習者がどのように「～ておく」を習得するかなど、どれも解決しなければならない問題である。

1.2 新しい教授法の提案—台湾人学習者の場合—

「～ておく」は動詞テ形に「おく」が接続して作られたものである。本論では、補助動詞が本動詞に影響を受けるものとし、「～ておく」の意味用法を①結果の維持を表す「放置」「放任」、と②事柄への解決を表すための「対処」に大別される。以下、「～ておく」の意味用法の抽象化レベルに従い、「～ておく」の教案を初級・中級・上級という三段階に分けてみる。

⁵⁶ (6') (7') (8') は筆者が『大家的日本語進階 I・II 文法解説書』にある「～ておく」の例文 (6) (7) (8) から「～ておく」を抜いて作ったものである。

1.2.1 初級：「結果の維持」「準備」

初級では、「結果の維持」と「準備」のみ提示する。

「置く」はものをある場所に位置させ、その状態を持続させる機能を持っている動詞である。それと組み合わせて作られた「～ておく」にもこのような状態を維持する機能があるものと考えられる。「おく」は「～ておく」の形で補助動詞として使われる場合に「結果の維持」と「準備」といった意味用法がある。

しかし、「～ておく」と「結果の維持」「準備」との関連性が簡単に連想できないため、学習者にそれを理解させるのはなかなか難しいことである。そこで、例えば、移動方向を表す「いく」、「くる」が補助動詞になると、本動詞の意味を色濃く帯びる「移動の方向」を表すもの、「動作の変化・持続」を表すものがある。動詞の本来の意味が抽象化することによって、派生的な用法が生じることを学習者に提示しつつ指導する。

特に『みんなの日本語』または『新文化日本語』を利用する学習者は「～ておく」を学習する前に、既に『みんなの日本語』の第24課で「～てあげる、～てもらう、～てくれる」を、『新文化日本語』の第19課で「～てみる」を学習している。これらをイントロダクションとして生かし、学習者に本動詞と補助動詞の関連性を理解させるのも、「～ておく」の習得に役に立つ方法の一つと思われる。

『みんなの日本語』の場合は、「～ておく」の項目に入る前に、「あげる」「くれる」「もらう」を例に、授受動詞が補助動詞として使われると恩恵表現になるということを説明する。実質的な物の授受行為から抽象化した恩恵行為の授受へと変化するという順序を学習者に提示し、補助動詞としての「あげる、くれる、もらう」の用法を復習する。それでもって学習者に補助動詞と本動詞の意味の関連性をなるべく意識させるようにする。

『新文化日本語』の場合は、「～ておく」の授業に入る前に、ある行為を試す意味を表す「～てみる」が出ている。「～てみる」は中国語では「看看」に相当するものである。「～てみる」を教える際に、まず日本語の「見る」と中国語の「看」を導入してから、「看看」の使用例を挙げながら、「～てみる」の使い方に繋がせる。すると、中国語話者の日本語学習者も納得されると推測される。このように、既習の補助動詞を復習してから、「～ておく」に入る。ただ具体的

な意味用法を指導する前に、まず動詞「置く」の意味と使い方を学生たちに考えてもらう⁵⁷。

次は筆者が提案する初級「～ておく」の教案である。

I. 「結果の維持」⁵⁸

(1) 窓は開けておいてください。〈窓戶請開著(不要關)〉。

(1') 窓は開けてください。〈窓戶請打開〉。

(2) A: テレビを消そうか。〈關電視吧〉。

B: もうすぐ連続ドラマの放送時間だから、つけといて。〈快要播連續劇了, 〈開著) 不用關〉。

(2') A: テレビを消そうか。〈關電視吧〉。

B: もうすぐ連続ドラマの放送時間だから、??つけて。〈快要播連續劇了, 打開電視〉。

(1) と (1') のような「～ておく」が付く文と付かない文が違う意味になる。(1') では聞き手が閉まっている窓を開けるのに対し、(1) では窓が開いている状態を持続させる意味が読み取れる。中国語訳でも異なりを見せている。(1) の「～ておく」は〈…著〉と訳することができる⁵⁹。(2) では、Aの聞いたこととBの返した言葉からテレビは今ついている状態であることがわかる。そして、BはAにそのままにするように要求する。ところが、「～とく (ておく)」を使わない(2') では、Bの返した言葉はAの質問とは矛盾するため、非文になる。

II. 「準備」⁶⁰: 将来的に起こりうることに備え、前もって対処する。

⁵⁷ 「置く」は『みんなの日本語』第15課、『新文化日本語』第9課に新しい語彙として取り上げられる単語である。

⁵⁸ 初級段階では学習者の混乱を招かないように「放置」「放任」を一つの「結果の維持」にする。

⁵⁹ 中国語の〈著〉について、興水優(1985)は「動作あるいは状態の持続をあらわす。その動詞の意味によって、動作自体の持続をあらわす場合と、動作の結果としての状態の持続をあらわす場合がある(p.182)」としている。

⁶⁰ ここで取り上げられた初級日本語における「～ておく」の例文は「準備」という解釈の方が学習者にとっては分かりやすい言い方であるため、「事前対処」という言い方には触れないことにする。しかし、中級レベルに至ると、ただ「準備」だけでは解釈できない用例が出てくる。中級レベルの学習者には既にある程度の日本語能力が身に付くため、その段階では、「対処」を導

(3) A: 次の会議、何をしておいたらいいですか。〈下次會議，我應該先做些什麼呢?〉

B: この資料を読んでおいてください。〈請先讀過這份資料。〉

(3') A: 次の会議、何をしたらいいですか。〈下次會議，我應該要做什麼呢?〉

B: この資料を読んでください。〈請讀這份資料。〉

(3) は「置く」の意味が抽象化したもので、(3') との違いがはっきりしている。(3) ではBがAの「次の会議までに事前にすることは何か」という質問に対し、「次の会議までに資料を読み終える」と答えたが、(3') は同じ質問に対し、「この資料を読めばわかる」と答えた。(3) のこのような「～ておく」が中国語の「事前」を意味する〈先〉に相当するものであるのに対し(3') の中国語訳にはそれが読み取れない。

1.2.2 中級：「放任」「目下対処」「事後対処」

初級とは違い、中級レベルの学習者はある程度の日本語能力が身に付いているため、初級レベルの「準備」より一層抽象化した「～ておく」の意味用法を教えることができる。初級「準備」の「～ておく」の延長線上、中級では「放任」「目下対処」「事後対処」を提示する。

III. 放任

(4) やりたい人にやらせておこう。〈有人想做，就讓他做吧。〉

(5) 気持ちの整理が付くまでもうすこしそっとしておいてやってください。〈在他情緒恢復前，請讓他靜靜地一個人獨處。〉

初級では中国語訳に「著」があることからわかるように、「～ておく」には結果を維持する用法がある。ところが、中級レベルの「～ておく」は中国語訳にできない場合が多いので、中国語訳からだけでは「～ておく」が付く文と付かない文の違いがわからない。しかし、中級レベルの学習者がこれまで勉強し入すれば「～ておく」の理解に役に立つと思われる。

てきた文型には抽象的なものが少なくないため、抽象化した「～ておく」を理解することができると思定される⁶¹。

「放任」の例(4)(5)では「～ておく」と共起する動詞—「やらせる」「そつとする」—はいずれも放任性を含んでいるものである。「放任」は中国語でも「干渉せずに成り行きに任せる」という意味がある⁶²。「成り行きに任せる」には「結果の維持」という意味が含意されるため、初級で「結果の維持」用法をマスターした学習者は中級で放任動詞と「～ておく」の組み合わせに接し「～ておく」の「放任」用法を理解することになるが、初級「結果の維持」用法の「～ておく」と「放任」の意味の間の繋がりを明らかにさせるのが大事なポイントである。

IV. 目下対処

(6) (閉店する時)

A: 忘れ物だ。どうしよう! <有人忘記東西・怎麼辦?>

B: 僕が預かっておこうか。<不然先交給我吧。>

(6') A: 忘れ物だ。どうしよう! <有人忘記東西・怎麼辦?>

B: 僕が預かろうか。<交給我吧。>

(7) (お勘定の場面) 私が払っておきます。<我先付吧。>

(7') 私が払います。<我來付吧。>

初級「～ておく」の意味用法として提示される「準備」は将来的に起こりうることに備え、前もって対処していることから「～ておく」には事態対処の機能があると理解される。そして、この機能は「目下対処」「事後対処」にも存在するのである。

(6) では、誰かの忘れ物に気付いたのは閉店しようとする時のことで、このことを解決しなければ閉店できない。そこへBが一時的な対処としてその忘れ物をしばらく預かると言って当面の問題を解決した。それに対し、(6') では中

⁶¹ ここで言う中級レベルは日本語能力試験二級に相当するものである。

⁶² 『現代漢日辞海上』では中国語の「放任」についての次の記述がある。「放任する。成り行きに任せる。自然に任せる (p. 894)」

国語訳にも多少このような違いが見られるが、この一時的な対処の意味があまり読み取れないのである。更に(7)と(7')となると、意味的には日本語も中国語もかなり違うものとなる。(7)は話し手が当面の事柄に対し、一緒に食事した人の代わりに先にお金を出し、後でみんなにお金をもらうという段取りとなっていると予想されるが、それとは違い、(7')では、話し手が一緒に食事した人たちにご馳走をしようとしているように理解される。

V. 事後対処

(8) 先に出ていいよ。お皿や茶碗はあとで洗っておく。

〈你先走沒關係啦。桌上的碗盤，我等下會洗。〉

(8') 先に出ていいよ。お皿や茶碗はあとで洗う。

〈你先走沒關係啦。桌上的碗盤，我等下會洗。〉

(9) A: この前、山田さんと話したときの態度が悪かったそうだなあ。

〈聽說前些日子，你跟山田先生講話時的態度很差。〉

B: 今度会ったら、謝っておこう。〈下次見到他，再跟他道個歉好了〉

(9') A: この前、山田さんと話したときの態度が悪かったそうだなあ。

〈聽說前些日子，你跟山田先生講話時的態度很差。〉

B: 今度会ったら、謝る。〈下次見到他，會跟他道歉。〉

「目下対処」と違い、(8)(9)のような「事後対処」による例は、既に起こった事柄に応じ、話し手が発話してからしばらく経った後に対処する行為を取るといった意志を見せている。時間的な幅という点において、「目下対処」「事後対処」の違いが明らかである。中級「～ておく」は初級「～ておく」より意味用法が抽象化し、中国語に訳せなかったり、中国語訳できたとしても抽象的すぎたりする場合がある。ところが、多数の例文を読み、また上記のような説明を通せば、少しはわかりやすくなるのではないかと思われる。

1.2.3 上級：「責任の縄張り」

(10) A: どうしよう！この手紙を出さなくちゃいけないのに。郵便局に行く時間がない。〈怎麼辦!這封信得寄出去，但我沒有時間去郵

局。>

B: どうせ私も郵便局に行かなくちゃいけないから、出しておきますしょうか。〈反正我也要去郵局，要幫你寄嗎?〉

(10') A: どうしよう! この手紙を出さなくちゃいけないのに。郵便局に行く時間がない。〈怎麼辦! 這封信得寄出去，但我沒有時間去郵局。〉

B: * どうせ私も郵便局に行かなくちゃいけないから、出しましょうか。

(11) A: なんでまだ (手紙を) 出してないの? 〈爲什麼還沒有寄信呢?〉

B: あとで出しておきます。

(11') A: なんでまだ (手紙を) 出してないの? 〈爲什麼還沒有寄信呢?〉

B: あとで出します。〈我等下就去寄。〉

(10) はなぜ使えて (11) は使えないかという点、(10) はAの仕事がBが好意でやってあげているのに対し、(11) はBがやるべく「手紙を出す」という行為をやっていないとAが責めている場合である。やるべきことをやっていない場合は「～ておく」は適さないことが分かる。これを仮に責任の縄張りと言付けよう。この責任の縄張りについて、もう少し考える必要があるが、本論ではこのくらいにとどめ、今後の課題としたい。

2. 文章における「～ておく」のあり方

初級レベルで学生が頻繁に接触する「～ておく」の意味用法はほとんど「準備」に限られている。しかし、中上級レベル、つまり実際の文章における「～ておく」の使用状況はどうなのだろうか。それを明らかにするために、東海大学日本語文学系「中級総合日本語A」⁶³で学生の発表した合計339篇の文章⁶⁴をもとに「～ておく」の使用頻度と「～ておく」の意味用法を調べることにした。

⁶³ 『中級総合日本語A』は東海大学日本語文学系の二年生の必修科目である。授業の目標を読解能力養成に設定し、授業の進み方としては、主に学生たちが自分で生の文章を見つけて発表することである。

⁶⁴ 筆者は97、98学年度の履修者がレポートとして提出した文章のワードファイルを利用し、そこに現れた「～ておく」の使用状況を調べた。

また「～ておく」がどのような文章に現れやすいかを解明するために、「中級総合日本語 A」で発表された文章を「紹介」「作法」「道徳」「物語」「インタビュー」「アンケート」「回想」「評論」という八種類に分け、「～ておく」を使用した文章の種類がどれに当てはまるかを分析する。そして、2.1と2.2では、調査の結果を中心に「対処」「放置」「放任」を用いた文章の類型と共起しやすい文型・表現について考察を行う。それを踏まえ、中上級における「～ておく」を指導する際に注意すべきところを考えてみたい。

類型	篇数	回数 ⁶⁵ (百分率)	事前対処	事後対処	目下対処	放置	放任
作法	36	16 (44.4%)	12 (75%)	1 (6.2%)	0 (0%)	1 (6.2%)	2 (12.5%)
物語	14	5 (35.7%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (40%)	1 (20%)
紹介	233	40 (17.1%)	28 (70%)	0 (0%)	7 (17.5%)	1 (2.5%)	4 (10%)
評論	20	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)
回想	28	1 (3.6%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
インタビュー	7	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
アンケート 結果報告	1	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	339	64 (100%)	42 (65.6%)	1 (1.6%)	8 (12.5%)	5 (7.8%)	8 (12.5%)

2.1. 「対処」が現れた文章の類型

「中級総合日本語 A」で学生が発表した文章を調べた結果、339 篇の文章で「～ておく」の出現回数は全部で 64 回であった。その中で最も使用頻度が高いものは「事前対処」で、出現頻度は全体の約 65.6%を占め、全部で 42 回であった。同じく「対処」を表す「事後対処」「目下対処」の使用頻度はそれぞれ 1.6%、

⁶⁵ この列のパーセンテージは文章の篇数を分母とし、その文章に現れた「～ておく」の回数を分子とし得たものである。それ以外の各意味用法のパーセンテージはその文章に現れた「～ておく」の回数を分母とし、各意味用法の使用回数を分子とし得たものである。

12.5%であった。現状維持を表す「放置」「放任」は合わせて13回現れ、全体の20.3%を占めた。

「中級総合日本語A」で最も多く発表された文章は「紹介」に関するものであることは表からわかる。しかし、「紹介」に現れた「～ておく」の使用頻度は低く17.1%にとどまっている。一方、36篇程度の「作法」では「～ておく」の出現率は44.4%で、「紹介」を遥かに上回った。この結果から「～ておく」が文章に用いられる時の傾向が伺える。以下では、分析した結果の使用頻度順に「～ておく」が違う種類の文章に現る頻度と「事前対処」「事後対処」「目下対処」「放置」「放任」との関係を検討する。

【作法】

「作法」に関する文章は主に物事を行う方法のもので、手順についての表現が頻出する。そのため、「事前対処」を表す「～ておく」が多く使われると考えられる。

- ・ 人というのは、笑い方ひとつを取っても個性や品格が表れてしまうもの。ならば、他人に好印象を与えられる笑顔をマスターしておけば、何かと得をするのではないか？（『好感度を上げる「笑顔」の作り方は？』）

また、「作法」には「道徳」「人生相談」「激励叱咤」の類の文章も含まれている。「人生相談」「激励叱咤」は読者に正しい扱い方やどうするといいいなど、人を励ますようなものが多く書かれるため、そのやり方としての手順に「事前対処」が利用されやすい。

- ・ 私はそういう生き方を否定するつもりはありません。ただし、そういう生き方をして三十歳も半ばになったときに、受け入れてくれるところはほとんどないということを知っておくべきです。なぜなら、苦しさをすり抜けてばかりいる人間に、仕事を託すわけにはいかないからです。我慢や堪えることが身についていない人間は、途中で仕事を放り投げてしまうものです。（『人生の方程式』）

一方、「事後対処」「目下対処」は成立条件に制限があるため、「作法」にはあまり用いられない。また、「作法」に見られる「事後対処」は、主に既に起こったことへの対応に用いられるようである。

- ・ 義母に相談したところ、しみっというのは色素の沈着なんだから、石鹸でよく洗って化粧水をたくさんつけておいたら治るわよ、と言われ、毎朝やっている。心なしか薄れてきたような気もしている。(『大切な時間をかみしめて』)

[物語]

発表された文章に「物語」の篇数が少ないものの、「～ておく」の使用割合は「作法」に次ぎ二位を占めた。中では、「放置」「放任」の出現率は合わせて物語全体の60%を占めたが、全体の合計篇数がかなり低いため、「～ておく」が「物語」における使用特徴が見出せない。ただし、「物語」は作者がどのような内容を書くかによって、「～ておく」を使うか否かに大きな影響を与えられられる。

[紹介]

「紹介」は発表された文章の全体の7割を占める文章だが、割合で見れば「～ておく」の使用頻度が低い。紹介類型といっても、映画、物の歴史、物の特徴、異国の習慣などに関するものが多いので、「事後対処」「目下対処」との直接的な関わりがない。また、これらの文章は物事を行う順序に関わるものが少ないから、「事前対処」の「～ておく」を使用する頻度が「作法」ほど高くないのである。

「評論」「回想」

「評論」はロジックで物事の善悪・価値などについて論じるものであるため、「対処」は用いられにくい。今回の調査では、「放置」「放任」の使用例がそれぞれ一回のみであった。「評論」で「放置」「放任」を使うか否かは内容次第と言える。

- ・ 日本では、森鷗外が『高瀬舟』で、安楽死は「殺人罪」に当たるのかと疑問を投じた。〈中略〉「病人があつて死に瀕して苦しんでいる。……早く死なせてやりたいという情は必ず起こる。ここに麻酔薬を与えてよいか悪いかという疑いが生ずるのである。……従来の道徳は苦しませておけと命じている」。(『安楽死のできる国』)

「回想」は過ぎ去ったことを振り返るものであるため、「～ておく」のどの意味用法がよく現れるかは必ずしも限定できないが、作者の書く内容によって「～ておく」を一切使わない可能性もあることがわかった。

「インタビュー」「アンケート」

「インタビュー」「アンケート」では「～ておく」の使用回数はゼロである。「インタビュー」は被取材者の話を聞くもの、「アンケート」は一定の質問形式で他人の意見を聞くものであるため、内容的に「～ておく」を使用する機会があまりないということが考えられる。

以上、「～ておく」が文章に用いられる特徴を分析した。分析の結果として、文章の種類によって、「～ておく」の使用頻度に大きな開きが見られる。中では、「～ておく」はもっとも頻繁にやり方の順序に関わる「作法」に用いられている。それは「事前対処」の特徴と「作法」の内容と合っているからと考えられる。文章の種類に応じ「～ておく」の意味用法の応用が変わることも「～ておく」を指導する際に提示すれば、学習者が「～ておく」を理解するのに役に立つだろうと思われる。

次に文章における「～ておく」がどのような文型などと共起するかを検討する。

2.2 文章における「～ておく」と共起しやすい文型・表現

分析した文章に現れた文を観察すると、「～ておく」とよく共起する文型などが見られる。「放置」「放任」の使用例は数が少ないが、主に「放置動詞」「放任動詞」または「動詞使役形」「～っぱなし」という表現と共起することが見られる。

出現率が低い「事後対処」は使用条件の制限によって文章には現れにくいですが、「回想」のような過去のことを振り返る文章なら、用いられることもある。

- ・ 義母に相談したところ、しみってというのは色素の沈着なんだから、石鹸でよく洗って化粧水をたくさんつけておいたら治るわよ、と言われ、毎朝やっている。(『大切な時間をかみしめて』)

一方、「目下対処」も出現率が低いですが、用いられる時の表現に共通点があることが目立つ。第四章の3.3で述べたように「目下対処」が成立するには「事柄」「発話時」「行為時」がほぼ同時に成立するという条件を満たす必要がある。このことから、「目下対処」は会話文以外に用いられにくいと判断される。ところが、339篇の文章に「目下対処」の「～ておく」を用いた文章は8篇ある。すべて文章の流れを予告する発話に用いられたものである。

- ・ バナナは大きく2つの種類に分かれ、生食用 Table Banana と料理用 Plantain があり、300種類以上あると言われています。ここでは日本で手に入る生食用の3種類のバナナについて、簡単な説明を加えておきましょう。〈後略〉(『バナナはおいしくて、体によいらしい!』)
- ・ ここで、歌舞伎の俳優について、ちょっとお話をしておきます。〈後略〉(『歌舞伎と舞踊』)
- ・ アルコールを飲めない人もいるので、とりあえず、欠かせないという人が多いとしておこう。アルコール飲料を適度に飲むと食べるものもおいしくなるし、〈後略〉(『食卓にアルコール飲料は欠かせない』)
- ・ そもそも、ボケとかツッコミとかいうのはどういったものなのか。ここで一応の規定をしておこう。ボケは「とぼける」「ぼける」と関係する語で、〈後略〉(『大阪的談話の特徴—ボケとツッコミ—』)

上記の用例の「～ておく」は前置きのような働きを持ち、後の文を引き出す。「目下対処」を用いる厳しい条件があるため、文章では「目下対処」はこのように作者が述べたいことに入る寸前にしか用いられないようである。

このように、中級の文章に現れる「事後対処」と「目下対処」の表現はかなり単純で、使用頻度もそれほど高くない。このような、「放置」「放任」「事後対処」「目下対処」と共起するものの単純さに対し、文章で多く用いられる「事前対処」の表現は多様である。それをまとめると次の表になる。

事前対処		
種類	文型・表現	合計回数
忠告・助言	～ておけば	10
	～ておくとよい/便利/安心	6
	～ておくのがおすすめ/正しい/大切	4
	～ておかなければならない	4
	～ておくべき	3
	～てほうがいい/無難/楽になる	3
	～ておく必要がある	1
	～ておきましょう	3
行為叙述	～ておく/～ておき/～ておいて/～ておきたい	8

表からわかるように、文章に現れる「事前対処」の多くは忠告・助言というアドバイスを表す文型・表現である。「事前対処」は、後のことを意識し、それに応じてあらかじめ何らかの「対処行為」を取るのが特徴である。忠告・助言、「～ておけば」のような表現は、適切な行為が成されれば後の結果に繋がるという点において「事前対処」と一致すると言える。

初級日本語では、学習者は「～ておく」は「～ために」「～ように」「～までに」「～前に」というはっきりした目的、順序の表現と共起するように指導されている。しかしながら、中上級レベルのような文章において、そうではないことが多い。そこで、学習者が既に習得した表現に合わせて、「～ておく」の意味用法を再説明する必要がある。例えば、「といい」「～のがおすすめ」「～べき」といった忠告・助言を表す意味用法と「～ておく」との共起関係の解説である。

3. まとめ

本章では、初級日本語教科書がどのように「～ておく」を扱っているのかを概観した上で、台湾人日本語学習者向けの教授法を提案した。「～ておく」の意味用法をレベル別に初級・中級・上級と分け、初級段階では、学習者が習得した文型は数が少ないことを考慮し、「置く」の意味に近い「～ておく」用法—「結果の維持」と「準備」—を指導する。「結果の維持」と「準備」は1.2.1で取り上げた例文の中国語訳のようにそれぞれ<著><先>と訳すことが可能である。この中国語訳を利用し、「～ておく」が付く例と付かない例の意味上の違いを学習者に示せば、初級「～ておく」が把握しやすくなると思われる。

中級レベルの学習者はある程度抽象的な意味用法を習得しているため、中級段階では「置く」の意味が抽象化した「放任」「目下対処」「事後対処」を教えることができる。初級「～ておく」より抽象化した意味用法といっても、初級「～ておく」の延長線上のものである。学習者に初級「～ておく」の意味用法を考えさせてから、「結果の維持」と「放任」の繋がり、「目下対処」「事後対処」を使用する文と使用しない文の意味上の違いを明らかにさせるのがポイントである。

上級段階では、「～ておく」の使用は責任の縄張りに関わることを提示した。事態解決の責任が自分にある場合は「～ておく」が使われないが、自分が相手の代わりに事態を解決する場合は「～ておく」が使われる。

2. では、「中級総合日本語 A」を履修した学習者たちの発表した文章から「～ておく」の使用実態を調べてみた。その結果、「事前対処」の使用頻度はほかの意味用法より圧倒的に高く、共起する表現は基本的に助言・忠告が多いが、そこにもいろいろな文型が見られる。そして、割合的に最も多く「事前対処」を使用する文章は「作法」である。それは、「作法」は物事を行う方法を描写するもので、手順についての表現が頻出するため、「事前対処」と共起しやすい。今回の調査した文章の中に最も使用頻度が低いのは「事後対処」である。それは「事後対処」の用法制限に関わると思われる。つまり、既に起こった事柄を解決するための「対処行為」を取るのが発話後にあるから、「事後対処」は文章に現れにくいのである。「目下対処」「放置」「放任」も使用頻度がかなり低いが、共起しやすい表現が多少見られる。文章に現れる「目下対処」は前置きの役割

を持ち、後の文に繋がる機能がある。「放置」「放任」は数が少ないが、主に同じく維持を表すものと共起する。例えば、「っぱなし」、「放置動詞」「放任動詞」「動詞使役形」などである。

第六章 結論

1 本論のまとめ

本論は、補助動詞には本動詞の意味に影響される傾向があることに重きを置き、①「～ておく」の基本的機能、②「～ておく」と共起する・しない動詞の特徴、③「～ておく」の多様な意味用法の相互関係について考察を行った。

第二章では、先行研究で「～ておく」がどのように扱われているのかを概観した。これまで「～ておく」に共通する意味用法は主に「準備」「放任」とされてきた一方で、谷口は違う視点で「～ておく」のほかの意味－「終結性」－を指摘した。しかし、先行研究ではなぜ「～ておく」に多様な意味用法が存在するかについての説明が見られない。

第三章では、「～ておく」と共起する動詞としない動詞について調査をした。その結果、[有対自他動詞の自動詞][無情物が主語に立つ自動詞][人間以外の生物が動作主に立つ動詞][感情動詞][話し手が動作主ではない動詞]は「～ておく」と共起しないことがわかった。しかし、「輸入する、輸出する、試合する、けんかする」といった意志動詞は動作主が複数人物であるため、個人的な意志表現を表す「～ておく」と共起しにくいのである。一方、話し手にとってプラスになる行為であれば、たとえ無意志動詞であれ、「～ておく」と共起することも可能である。

第四章の1.ではいくつかの補助動詞を対象とし、本動詞と補助動詞の関連性を検討してみた。その結果、本動詞の意味が抽象化していく過程に派生してきた補助動詞の意味用法には本動詞の意味の影響が見られる。そのため、辞書で調べた「置く」の主な意味用法に基づき、「～ておく」の基本的な機能を結果状態を持続させるものとした上で、「～ておく」の意味用法について考察を行った。

意味的・機能的に「置く」に近い「放置動詞」に「～ておく」が付くと、前項動詞の放置性の意味を強めていることが見出される。このような「～ておく」の意味用法を「放置」とする。そして、「～ておく」が「放任」の意味を表す動詞に付くと「放任」の意味が強調されるため、この場合の「～ておく」を「放任」とする。「放置」と「放任」の違いは前項動詞の種類のみならず、「放任」の「を」格の前に「人間」が来る場合もあるところからも両者の違いが見られ

る。

3. では、「放置動詞」「放任動詞」以外の動詞に接続する「～ておく」の意味用法—「対処」—について考察した。更に「対処」を細かく「事前対処」「事後対処」「目下対処」に分類して検討した。「対処」を細分化するにあたって、事柄、対処行為、発話を基準に意味用法を区別した。将来的に起こりそうなことに備えて事前を取る「対処行為」に用いられる「～ておく」を「事前対処」とする。そして、「事前対処」と異なり、既に起こった事柄に対し、後で取る「対処行為」に使われる「～ておく」を「事後対処」とする。また、その場で起こった事柄に対する発話と「対処行為」がほぼ同時に成立する場合の「～ておく」を「目下対処」とする。

「放置」「放任」「対処」はそれぞれ違う種類の動詞と共起することによって、違う意味用法を表している。しかし、3.4では、文脈によって、この三つの意味用法がそれぞれ重なり合う可能性があることがわかった。それは「～ておく」の基本的な機能が三つの意味用法に働くことに関わると考えられる。これによって、本論は「～ておく」の多様な意味用法が連続的なものとして捉える。

第五章では、初級日本語教科書における「～ておく」のあり方を概観した上で、台湾人日本語学習者向けの「～ておく」の学習を初級（「結果の維持」「準備」）・中級（「放任」「目下対処」「事後対処」）・上級（「責任の縄張り」）という三段階に分けて教案を提案してみた。中では、特に学習者に補助動詞と本動詞の関連性を考えさせた上で、「～ておく」のある文と「～ておく」のない文の意味上の違いを提示することは「～ておく」の習得に役に立つ可能性があるとして述べた。更に、339篇の文章を通して「～ておく」の実際的な応用を検討してみた。その結果、①一般的に多く文章に使用される「～ておく」の意味用法は「事前対処」、②「目下対処」「事後対処」は成立条件に制限があるため、文章には現れにくいということがわかった。

2. 今後の課題

本論で目的として掲げた三点①「～ておく」の基本的機能、②「～ておく」と共起する・しない動詞の特徴、③「～ておく」の多様な意味用法の相互関係については考察を行った。しかし、それに関する未解決の問題点が出てきた。

まずは「～ておく」と共起する副詞的成分の考察である。今回の考察は主に「～ておく」と共起する動詞としない動詞を中心に行われ、「～ておく」と共起する副詞的成分に関する詳しい検討が欠如している。例えば、「～ておく」と共起しやすい「しばらく」「ずっと」などの時間を表す副詞、「一応」「とりあえず」といった「十分とは言えないが」という意味を示す副詞「っぱなし」「まま」など状態維持を表す表現との関連性も深く検討しなければならない。

次に、第五章の2.で分析した「中級総合日本語A」で発表された文章にある「～ておく」の用例はほぼ書記言語のものであるため、会話によく見られると予想される「事後対処」「目下対処」の用例は少なかった。これらについて分析する必要がある。

最後に、「～ておく」に隣接する表現「～である」との相違に関しても検討に至らなかった。「～ておく」と「～である」について、『日本語文型辞典』では、次のような記述がある。

「～である」も将来に備えての準備を表すが、構文の形式的違いのほかに、「～ておく」の場合は、準備として何らかの行為を示し、「～である」はその準備ができている状態を示すという違いがある⁶⁶。

『初級日本語文法と教え方のポイント 2005』にも「～である」と「～ておく」の違いについての記述がある。

「～ておく」が（前もって行う）動作のほうに焦点が置かれるのに対して、「～である」は動作が行われた結果の状態に焦点が置かれる点です⁶⁷。

しかし、このように、どのような条件が前提であれば、「～ておく」構文も「～である」構文も成立するのか、逆に、どのような条件が前提であれば、片方しか成立しないのかについてはあまり論じられていない。また、日本語教科書では、「～ておく」と「～である」の用法が提示されているが、「～である」と「～

⁶⁶ グループ・ジャマシイ、2001『日本語文型辞典』p.247-248、くろしお出版

⁶⁷ 市川保子、2005、『初級日本語文法と教え方のポイント』p. 215、スリーエーネットワーク

ておく」の過去形—「～ておいた」—との違いについては説明されていない。そのため、以下の例の違いは台湾人日本語学習者にわかりにくいと言えるものである。

- ・ この件については、もう彼に頼んでおいた。〈關於這件事情，我已經拜託他了。〉
- ・ この件については、もう彼に頼んである。〈關於這件事情，我已經拜託他了。〉

上記の二つの例の中国語による翻訳が同じであるため、台湾人日本語学習者は、意味上の違いを中国語の対訳で理解しにくい。ゆえに「～である」と「～ておく」についての把握が難しくなる。これらの問題に関しては、今後の課題としたい。

参考文献

論文・専門書類

- 森田良行、2008、『動詞・形容詞・副詞の辞典』、東京堂出版
- 日本語記述文法研究会編、2007、『現代日本語文法③』、くろしお出版
- 市川保子、2005、『初級日本語文法と教え方のポイント』 pp. 211-217、スリーエーネットワーク
- 庵功雄、2001、『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』、スリーエーネットワーク
- グループ・ジャマシイ、2001、『日本語文型辞典』 pp. 239-240、pp. 247-248、くろしお出版
- 庵功雄他、2000、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリーエーネットワーク
- 谷口秀治、2000、「「～ておく」に関する一考察—終結姓を持つ用法を中心に—」『日本語教育』、104号、pp. 1-9
- 富田隆行、1997、『続・基礎表現 50 とその教え方』、凡人社
- 山崎 恵、1996、「「～ておく」と「～てある」の関連性について」『日本語教育』 88号、pp. 13-24、日本語教育学会
- 広瀬正宜他編、1994、『日本語学習使い分け辞典』、講談社
- 森田良行、1994、『動詞の意味的文法研究』、明治書院
- 井上和子、1989、『日本文法小事典』、大修館書店
- 加藤泰彦、福地務、1989、『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 15』、荒竹出版
- 町田健、1989、『日本語の時制とアスペクト』、アルク
- 森山卓郎、1988、『日本語動詞述語文の研究』、明治書院
- 興水優、1985、『中国語研究双書⑧ 中国語の語法の話—中国語文法概論—』、光生館
- 益岡隆志、1984、『命題の文法—日本語文法序説—』、くろしお出版
- 吉川武時、1982、「日本語教育におけるテンス・アスペクトのあつかい」『日本語学 12月号』 pp. 65-71、明治書院
- 寺村秀夫、1982、『日本語のシンタクスと意味 I』、くろしお出版

森田良行、1977、『基礎日本語』、角川書店
吉川武時、1973、「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語のアスペクト』
金田一春彦編、1976、pp. 267-293、むぎ書房
松下大三郎、1924、『標準日本文法』、紀元社

辞書類

香坂順一、1999、『現代漢日辞海 上』北京大學出版社
———、1999、『現代漢日辞海 下』北京大學出版社
松村明、1998、『大辞泉』〈増補・新装版〉、小学館
林史典他編、1992、『現代国語用例辞典』、教育社
梅棹忠夫他編 1992、『日本語大辞典』、講談社
新村編、1991、『広辞苑』第四版、岩波書店
小泉保他編、1989、『日本語基本動詞用法辞典』、大修館書店
松村明、1988、『大辞林』、三省堂

教科書類

文化外国語専門学校日本語科、2003『新文化日本語 初級3』、大新書局
スリーエーネットワーク、2002、『大家的日本語 進階 I II [教師指導書]』 pp. 54
—62、大新書局
新文化外国語専門学校日本語科、2000、『新文化初級日本語 II 教師用指導手冊』
pp. 91、双大出版有限公司。
大新出版社編輯部、1999、『大家的日本語進階 I・II 文法解説書』、大新書局
スリーエーネットワーク、1998、『みんなの日本語 2』、スリーエーネットワー
ク

用例出典

1. 『新潮文庫 100 冊 CDROM』
藤原正彦『若き数学者のアメリカ』、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・
ワンダーランド』、宮本輝『錦繡』、遠藤周作『沈黙』、林芙美子『放浪記』、『藤
原正彦若き数学者のアメリカ』、エミリー・ブロンテ『嵐が丘』、五木寛之『風

に吹かれて』、立原正秋『冬の旅』

2. 脚本

『恋人よ』、『LOVE STORY』、『白い影』、『ロングバケーション』、『夢のカリフォルニア』

3. 文章

『葬儀の費用』、新美南吉『ごん狐』、『四下』、『安楽死のできる国』、『大切な時間をかみしめて』、『好感度を上げる「笑顔」の作り方は?』、『人生の方程式』、『バナナはおいしくって、体によいらしい!』、『歌舞伎と舞踊』、『大阪的談話の特徴ーボケとツッコミー』

『食卓にアルコール飲料は欠かせない』

4. インターネット検索エンジン

Goole、Yahoo